

上野原市 みらい戦略 2025-2030

上野原市デジタル田園都市構想総合戦略

令和 7年 3月



上野原市

市長あいさつ

「将来に希望の持てるまち」を目指して

「若者が住みたくなるまち、上野原」を掲げた「第2期上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され5年が経過しました。計画期間中には、若者が働きやすい環境づくりを目指した通信環境の整備や市民団体への支援の強化などを進め、コロナ禍という未曾有の事態を乗り越え、上野原市が誕生してからはじめてとなる社会増を達成するなど、まちに新たな人の流れや変化が生まれてきました。

第3期となる「上野原市みらい戦略」を策定するにあたり、2060年を視野に入れたなかで、次の5年間の動きを市民アンケートやワークショップ、ヒアリングといった手法を通じて、多くの市民、団体、事業者などの声を伺い、多くの想いや願いを盛り込んで策定してまいりました。これからの5年においても、引き続き予断を許さない人口減少や少子高齢化、更には物価高騰、自然災害の激甚化など、先行きが不透明な状況下により、これまで予想もできなかった未知なる課題が表出し、本市を取り巻く環境や社会経済状況が大きく変化していくことが予想されます。

将来に希望をつなぐためには、今を生きるそれぞれの世代が、「過去」や「将来」という時間の経過の中で、今まさに上野原で豊かに暮らしているということを見つめ直しながら、私たち自身のために「できること」、私たちが想う将来世代のために「しておきたいこと」を、市民一人ひとりがこのまちの市長である意識を持ってあきらめず実現していくことが大切だと感じています。

本戦略も、「本気でやりとげる」という覚悟をもって挑みたいと思います。

少子化、人口減少、まちの自慢を実感している人が少ないといった課題。これらを少しでも良い方向へと向かわせることができるよう、また、「まだ、知らないだけ」の上野原の「未知」なる資源や課題を「価値」へと変え、次世代への「道」をつくり・つなぐため、市民のみなさまも一緒に実行してまいりましょう。

令和7年3月

上野原市長 村上 信行

目次

I 上野原みらい戦略の策定にあたって	2
1 策定の趣旨	2
2 計画の期間	2
3 本戦略の位置づけ	3
4 デジタル田園都市国家構想に関する国及び山梨県の方針	4
5 地方創生 2.0 の基本的な考え方について	5
6 本戦略の推進方策	5
II 第2期総合戦略の評価	6
1 第2期総合戦略の重点目標と検証フロー	6
2 第2期総合戦略の個別目標	10
III 上野原市人口ビジョン	16
1 総人口について	16
2 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の最新推計について	16
3 市独自の推計について（社人研との比較）について	17
4 上野原市の目標人口に対する考え方	18
5 上野原市における目標人口	22
IV 上野原市みらい戦略	33
1 市民意向の把握と策定の流れ	33
2 市民アンケート結果	33
3 うえのはら未来会議（市民ワークショップ）	50
4 市民団体・事業者等ヒアリング結果	53
5 地域ビジョン	55
上野原市みらい戦略の全体像	62
6 各基本戦略の展開	65
（1）重点プログラム	65
（2）基本戦略1 子育て・教育の循環	67
（3）基本戦略2 人、仕事の循環	70
（4）基本戦略3 暮らしの循環	74
（5）デジタル実装	77
資料編	80

I 上野原みらい戦略の策定にあたって

1 策定の趣旨

全国的な人口減少と東京一極集中に代表される大都市への人口移動を背景に、上野原市においても人口が減少傾向で推移しています。

少子高齢化を伴いながら進展する人口の急激な減少は、地域における経済活動やコミュニティ活動などの活力を衰退させ、ひいては、本市における安定した生活・暮らしや都市経営そのものの持続可能性が危惧されています。

こうした状況の中で、本市では令和2（2020）年3月に「上野原市人口ビジョン」を見直し、長期的な将来人口として令和42年において目標総人口11,166人として将来展望を掲げるとともに、その実現に向けた「第2期上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、第2期総合戦略）」を策定し、様々な人口減少対策の取組を進めてきました。

第2期総合戦略の期間中には、新型コロナウイルス感染症の拡大により、新たな働き方や暮らし方、地方移住への関心を高めるとともに、デジタル技術の活用を一気に加速させる契機となりました。一方で、地域経済への打撃、コミュニティの衰退、若者の都心部への流出、婚姻数や出生数の減少が顕著となり、人口減少や少子高齢化といった課題がさらに深刻化する影響も及ぼしています。

こうした中、国では「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、令和4（2022）年12月にデジタル技術の活用を社会課題解決の鍵とした「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定し、更には令和6（2024）12月に都市も地方も、楽しく、安心・安全に暮らせる持続可能な社会を目指した「地方創生2.0」の基本的な考え方を取りまとめています。

上野原市では、第2期総合戦略が令和6（2024）年度を計画最終年度としていることから、これまでの取組を切れ目なく次の「デジタル田園都市構想」、「地方創生2.0」へとつなげ、人口減少・生産年齢人口の減少という事態を、正面から受け止めた上で、人口が減少しても経済成長し、社会を機能させるため「人を大事にする地方」、「楽しく働き、楽しく暮らせる地方」の実現を目指した「上野原市デジタル田園都市構想総合戦略～上野原市みらい戦略～」を策定するものです。

2 計画の期間

上野原市みらい戦略は、令和7（2025）年4月から令和12（2030）年3月を計画期間とします。

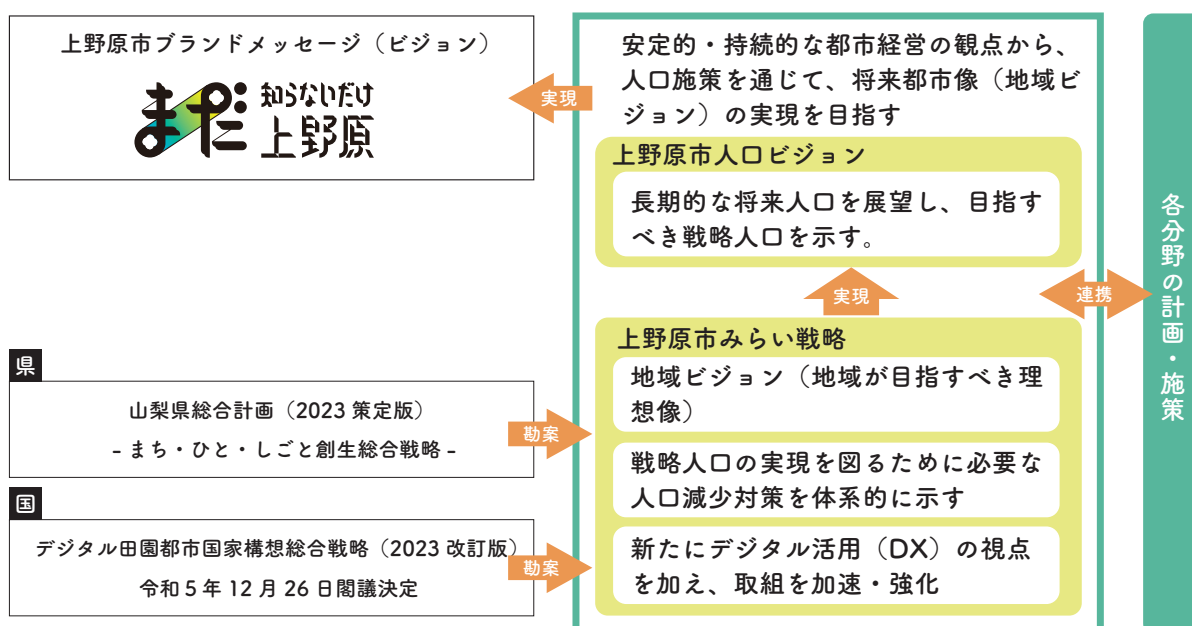
R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)
第2期上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略															
				見直し	上野原市みらい戦略 (上野原市デジタル田園都市構想総合戦略)										
									見直し	第2期上野原市みらい戦略					

3 本戦略の位置づけ

本戦略は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条の規定に基づき、国及び山梨県の総合戦略（総合計画）の方向性を勘案し、人口減少対策と将来にわたり活力あるまちづくりを推進するための目標や施策等をまとめた「上野原市デジタル田園都市構想総合戦略～上野原市みらい戦略～」として位置づけを行います。

策定にあたっては、本市の最上位計画として、その他各種計画における推進事項も鑑みて策定をしています。

この戦略は、本市の人口の現状分析と令和27（2045）年を見据えた人口の将来展望を示す「人口ビジョン」、また人口ビジョンの将来展望を実現するため、今後5年間の具体的な施策・事業を取りまとめた「デジタル田園都市構想総合戦略」の2つによって構成されています。



5 地方創生 2.0 の基本的な考え方について

令和 6（2024）年 10 月「新しい地方経済・生活環境創生本部」（新地方創生本部）が設置されました。同本部は「デジタル田園都市国家構想実現会議」を発展させたもので、「地方こそ成長の主演」という理念のもと、単なる地方の活性化策ではなく、日本の活力を取り戻す経済政策であり、多様性の時代の多様な幸せを実現するための社会政策を議論することを目的としています。また同年 12 月 24 日には同本部より地方創生 2.0 の「基本的な考え方」が示されました。2025 年夏に以下の「地方創生 2.0 の基本構想の 5 本柱」に沿った政策体系の検討及び、今後 10 年間に集中的に取り組む基本構想が取りまとめられます。本市においても国の動きを注視しながら取り組むこととします。

＜地方創生 2.0 「基本的な考え方」について＞

（1）地方創生 2.0 を検討していく方向性（1.0 との違い）（基本姿勢）

- ・ 人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じる。
- ・ 「人を大事にする地域」、「楽しく働き、楽しく暮らせる地域」を創る。教育・人づくりにより一人ひとりの人生の可能性を最大限引き出すとともに、その選択肢を拡大していく。
- ・ 災害に対して地方を取り残さないよう「地方を守る」。

（2）地方創生 2.0 の基本構想の 5 本柱

- ① 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生
- ② 東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散
- ③ 付加価値創出型の新しい地方経済の創生
- ④ デジタル・新技術の徹底活用
- ⑤ 「産官学金労言」の連携など、国民的な機運の向上

令和 6 年 12 月 24 日新しい地方経済・生活環境創生本部決定 地方創生 2.0 の「基本的な考え方」より

6 本戦略の推進方策

本戦略の策定にあたっては、庁内各課へのヒアリング及び上野原市地方創生検討会議、上野原市地方創生本部会議、また公募市民や地域団体代表、外部有識者、市内産官学等各界からの委員で構成される「上野原市まちづくり委員会」及び「うえのはら未来会議」から幅広く意見を取り入れて策定を行いました。

本戦略の推進にあたっては、市民、地域団体等をはじめとして、関係団体や民間事業者の参画が重要であり、策定過程と同様に、産官学金労言一体となった取組を進めていきます。

また、本戦略を効果的、かつ着実に推進し、市内外へ発信を行うため「庁内横断の広報連絡会議」を設置することにより、事業の効果検証を行うとともに、庁内横断組織による評価を毎年度行うこととします。

また、本戦略の取組事項や進捗については、上野原市広報等を通じて、市民へ報告、発信を行います。

II 第2期総合戦略の評価

1 第2期総合戦略の重点目標と検証フロー

第2期上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「若者が住みたくなるまち、上野原」を重点目標として、①若者世代の流出をふせぐ、②雇用の創出、移住の推進等により若者世代の人口を増やす、③合計特殊出生率を高めていくを基本的方向として構成しました。

検証にあたっては、事業検証シートを作成し、第2期総合戦略における事業評価、重要業績評価指標（KPI）の達成状況の確認、第3期総合戦略に向けて各事業の今後の方向性の確認などを、各課ヒアリングなどを通して行いました。

図 第2期総合戦略における検証フロー

下記内容の事業検証シートを作成し、担当各課において記入後、詳細のヒアリングを実施。

① 第2期総合戦略の実績・成果（達成できたこと）

→第2期総合戦略の各事業を総評し、実績・成果を確認。

② 第2期総合戦略の積み残した課題

→第2期総合戦略における各事業の目標達成にむけた積み残しの課題を確認。

③ 各施策における重要業績評価指標（KPI）の達成状況（R2-R6）

→各施策における年度毎のKPIについて達成状況を確認。
事業評価の際の参考数値として把握。

④ 第2期総合戦略における事業評価

→第2期総合戦略において、各事業の担当による各事業毎の評価を行った。
達成度合い毎に「A：達成（100%以上）/ B：概ね達成（80%以上）/
C：活動見込みを下回った（80%未満）/ E：未実施」で評価。

⑤ 第2期総合戦略における各事業の今後の方向性（第3期総合戦略に向けて）

→第3期総合戦略策定にあたり第2期の各事業において今後の方向性を確認。
「拡充・継続・縮減・休止/廃止・未定」で判断し、各課ヒアリングにて
詳細内容をヒアリング。

図 第2期総合戦略における施策体系



出典：第2期上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略

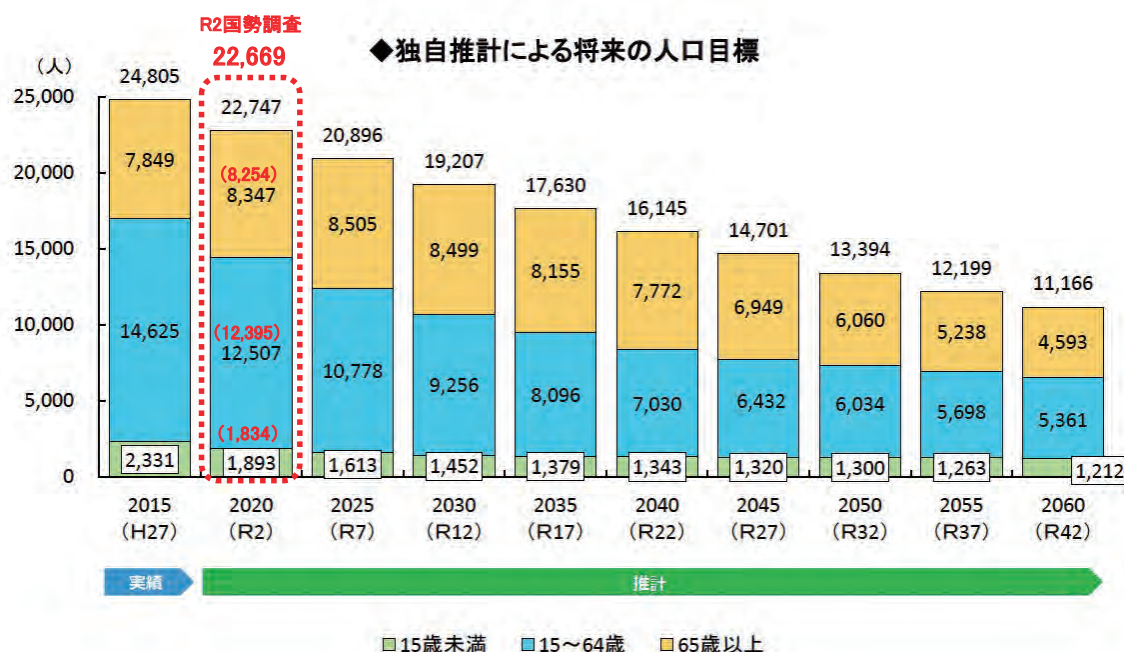
(1) 目標人口について

第2期総合戦略では「若者が住みたくなるまち上野原」を重点目標に掲げ、令和6（2024）年度の目標値を合計特殊出生率1.2、若者人口3,500人以上確保と設定しています。

令和5（2023）年の出生率は0.80で、若者人口令和6（2024）年は3,450人となっています。

上野原市人口ビジョンにおける、将来人口目標を令和2（2020）年（推計）では、総人口が22,747人となっていますが、令和2（2020）年国勢調査の結果22,669人となっています。

図 第2期総合戦略における人口目標と令和2年現状値（R2 国勢調査）



出典：第2期上野原市まち・ひと・しごと創生総合戦略

表 第2期総合戦略における合計特殊出生率と若者人口

KPI		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
合計特殊出生率	目標値	—	—	—	—	1.2
	現状値	0.98	0.92	0.78	0.80	—
若者人口 (20～30代)	目標値	—	—	—	—	3,500人以上
	現状値	3,793	3,744	3,660	3,538	3,450

(2) 人口動態（自然増減・社会増減）について

人口減少の抑制には、自然増減（出生数と死亡数の差）と、社会増減（転入と転出の差）が大きく関係します。第2期総合戦略において転出超過数を▲80人と目標に定めていますが、令和5（2023）年で▲107人と目標を下回る結果となっています。

自然増減では、平成30（2018）年ごろからは毎年200人を超えるマイナスとなっており、死亡数の抑制と出生数の増加が必要です。

社会動態については、コロナ禍であった令和3年に合併後初めてとなるプラス18人と転入超過となっています。

図 自然動態の推移

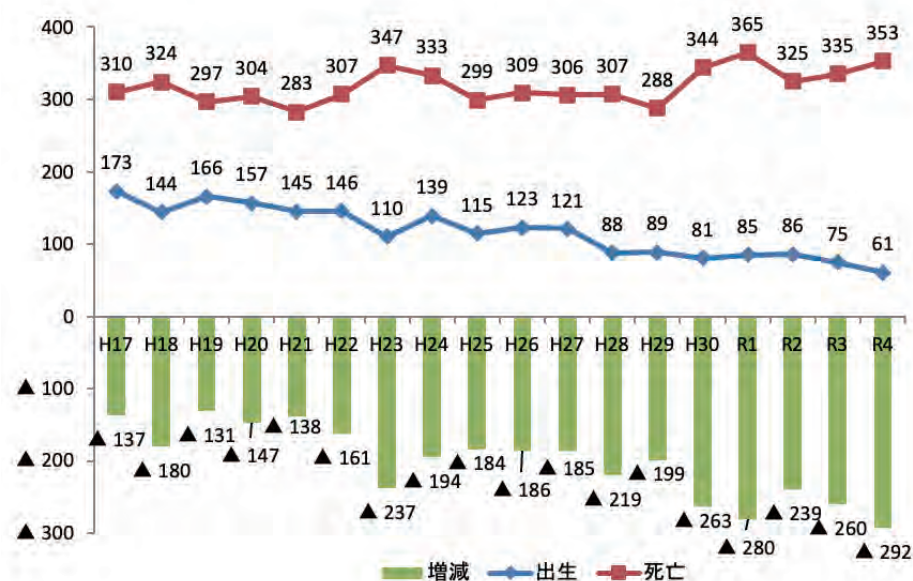
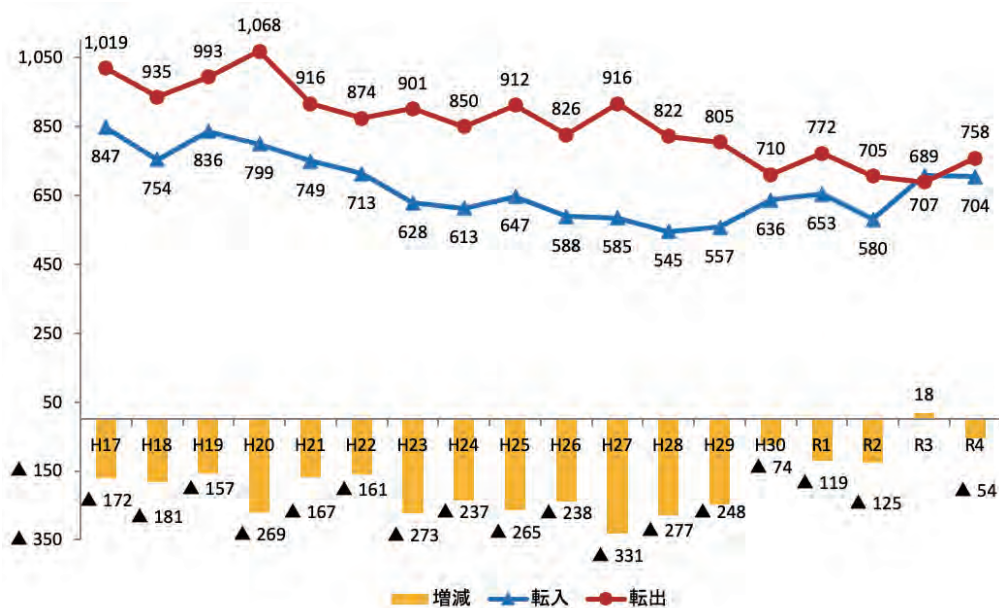


図 社会動態の推移



2 第2期総合戦略の個別目標

(1) 基本目標1 魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくりについて

コロナ禍による地域経済の冷え込みの影響は大きく、KPIとして設定している新規雇用総数の250人の達成見込みは低くなっています。

一方で、コロナ禍が収束した、令和4（2022）年から令和5（2023）年と新規創業に関する相談及び創業者数が増加しているため、相談窓口の強化や金融機関との連携強化、創業を後押しするセミナーの開催、催事への出展、テストマーケティングの支援、都市部企業のサテライトオフィスの誘致など、上野原市の強みを活かした創業支援・販路拡大等が必要です。

また、新たな要素として、都市部人材の兼業や副業、ワーケーションなど新しい働き方に関するニーズが高まっているため、見晴亭など既存施設の活用促進及び上野原市内の企業とのマッチングなどを積極的に行うなど、多様な働き方に合わせた施策・事業が求められます。

表 第2期総合戦略における基本目標と KPI

基本目標1 魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくり					
KPI	【5年後（R6）の目標】新規雇用総数：250人				
年度	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	—	—	—
(参考) 新規創業総数 15件	相談者数6件 創業者数0件	4件 0件	4件 4件	14件 4件	10件 3件 (5年新規創業 総数10件)

(2) 基本目標2 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくりについて

各年毎の振れ幅はあるものの、全体的なトレンドとしては、令和3（2021）年に合併後初の社会増となるなど、社会増減に関する目標達成の見込みは高くなっています。

一方で、自然増減は大きくマイナスとなっているため、自然減のマイナス幅を最小限にしつつ、社会増を増やしていことが必要です。具体的には、年間の移住相談や移住者数は増加しているため、子育て世帯や20～30代女性などをターゲットとした移住に関する更なる情報発信の強化（シティプロモーションの強化）や住まいや仕事などをワンストップで相談できる体制づくりなどが求められます。また、空き家バンクの登録件数は県内有数のため、空き家の利活用を促進する、市内の改修事例の発信やDIYリフォームの講座、リフォーム補助の拡充などが期待されます。

表 第2期総合戦略における基本目標とKPI

基本目標2 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり					
KPI	【5年後（R6）の目標】転出超過数 80人				
年度	R2	R3	R4	R5	R6
実績	▲125人	18人	▲54人	▲107人	—
(参考) 自然増減	▲239	▲260	▲292	▲275	
(参考) 社会増減	▲125	18	▲54	▲107	
(参考) 移住者数300人 (5年間総数)	34世帯 65人 (市が関与)	38世帯 78人	36世帯 85人	37世帯 87人	32世帯 71人 (計177世帯、 386人)

(3) 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくりについて

出生数（0～4歳人口）や25～44歳女性人口などは減少を続けています。また、産婦人科や小児科などの出産環境、保育園や公園など子育て環境に対する不満も多くなっています。

上野原市の人口減少の一番の要因となっている、子育て世代の減少とそれに伴う出生数の減少に対応するため、若者世代が安心して出産、育児、子育てできる環境づくりが必要です。特に、産婦人科医や小児科医の誘致、子どもが天候に関係なく安心して遊べる場所の整備など、ハード整備には時間が必要なため、子育てサークル活動などの促進を図るとともに、地域全体で子どもや子育て世帯を支える仕組みづくりが必要です。

表 第2期総合戦略における基本目標とKPI

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり					
KPI	【5年後（R6）の目標】子育て環境や支援の満足度 55%以上				
年	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	—	—	—
(参考) 出生数	83	76	61	62	59
(参考) 0～4歳人口	475	447	438	411	392
(参考) 25～44歳女性人口	1,866	1,809	1,762	1,708	1,652

(4) 基本目標4 時代にあった地域をつくり、快適で安心な暮らしを守るまちづくりについて

人生100年時代を見据えたアクティブシニアの増加（要介護認定を初めて受けた年齢など）については、目標値をほぼ達成見込みとなっているため、介護予防教室の実施や生活支援体制の構築など、今後も地域包括的な支援体制を継続していく必要があります。

近年頻発し大規模化している自然災害や新たな感染症の脅威など安心して暮らせるまちづくりについては、「自助」「共助」「公助」による有事の際の避難体制の構築など、地域防災力を強化していく必要があります。

また、地域公共交通の充実や安全安心な歩行環境（通学路）の整備については、市民アンケートにおいて重要度が高く、満足度が低い項目（重点改善項目）となっているため、交通事業者や市の財政状況なども考慮しながら、人口減少・少子高齢化に対応した交通ネットワークの検討が必要です。

表 第2期総合戦略における基本目標とKPI

基本目標4 時代にあった地域をつくり、快適で安心な暮らしを守るまちづくり					
KPI	【5年後（R6）の目標】上野原市が住みやすいと感じる市民の割合 60%以上				
年度	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	—	—	53.6 %
（参考） 健康寿命 ※初めて要介護認定を受けた年齢 男 83 歳 女 85 歳 （5 年後）	男 79.5 歳 女 84.1 歳	男 80.7 歳 女 82.2 歳	男 81.0 歳 女 83.0 歳	男 84.6 歳 女 84.7 歳	—

(5) 基本目標5 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくりについて

基本目標3で述べたように、上野原市の人口減少の一番の要因となっている、若い女性や子育て世代へ訴求するためにも、上野原だからできる教育の推進が必要です。上野原市の魅力を学んだり、地域課題を解決したりする課題解決型学習や多様な職業観を育むキャリア教育が求められます。そのためには、多様な体験の場づくりと各小中高と地域の連携を促進するコーディネーターの配置など、生徒が地域と積極的に関わり、主体的に地域理解を深める取組を進めることが重要です。

また、市内の市民活動団体は増加傾向のため、活動を自立・継続するための講座や市民活動団体の課題やノウハウを共有する団体同士の交流促進など、協働の担い手の育成が必要です。

表 第2期総合戦略における基本目標とKPI

基本目標5 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり					
KPI	【5年後（R6）の目標】市民討議会等開催件数 20 回以上（5 年間総数） ※令和2年からコロナ禍のため未実施。（廃止）				
年度	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	—	—	—
（参考） 体験等参加者数 12,150 人 （5 年間総数）	生活科総合 学習参加児 童生徒数 1,264 人	1,226 人	1,201 人	1,120 人	—
（参考） 市民活動支援件数 25 件以上 （5 年間総数）	7 団体	7 団体	20 団体	23 団体 （見込み） 計 57 団体 （実数 34 団体）	—

(参考) 第2期総合戦略における個別事業の評価

表 第2期総合戦略における個別事業の達成状況

事業数	74	
A：達成（100%以上）	22	29.7%
B：概ね達成（80%以上）	28	37.8%
C：活動見込みを下回った（80%未満）	12	16.2%
E：未実施	2	2.7%
記載無し	10	13.5%

達成が67.5%

1. 魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくり	2. 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり	3. 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり	4. 安全・安心な暮らしを守り、連携と協働で郷土愛あふれるまち・人をつくる	5. 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり
事業数 9	事業数 18	事業数 21	事業数 16	事業数 10
A：達成（100%以上） 1	A：達成（100%以上） 7	A：達成（100%以上） 7	A：達成（100%以上） 4	A：達成（100%以上） 3
B：概ね達成（80%以上） 2	B：概ね達成（80%以上） 8	B：概ね達成（80%以上） 8	B：概ね達成（80%以上） 9	B：概ね達成（80%以上） 1
C：活動見込みを下回った（80%未満） 1	C：活動見込みを下回った（80%未満） 2	C：活動見込みを下回った（80%未満） 5	C：活動見込みを下回った（80%未満） 2	C：活動見込みを下回った（80%未満） 2
E：未実施 1	E：未実施 0	E：未実施 0	E：未実施 0	E：未実施 1
未定（記載無し） 4	未定（記載無し） 1	未定（記載無し） 1	未定（記載無し） 1	未定（記載無し） 3

表 第2期総合戦略における個別事業の方向性

事業数	74	
拡充	3	4.1%
継続	44	59.5%
縮減	3	4.1%
休止・廃止	16	21.6%
未定（記載無し）	8	10.8%

1. 魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくり	2. 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり	3. 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり	4. 安全・安心な暮らしを守り、連携と協働で郷土愛あふれるまち・人をつくる	5. 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり
事業数 9	事業数 18	事業数 21	事業数 16	事業数 10
拡充 0	拡充 0	拡充 0	拡充 1	拡充 2
継続 3	継続 12	継続 16	継続 10	継続 3
縮減 0	縮減 3	縮減 0	縮減 0	縮減 0
休止・廃止 2	休止・廃止 3	休止・廃止 4	休止・廃止 5	休止・廃止 2
未定（記載無し） 4	未定（記載無し） 0	未定（記載無し） 1	未定（記載無し） 0	未定（記載無し） 3

Ⅲ 上野原市人口ビジョン

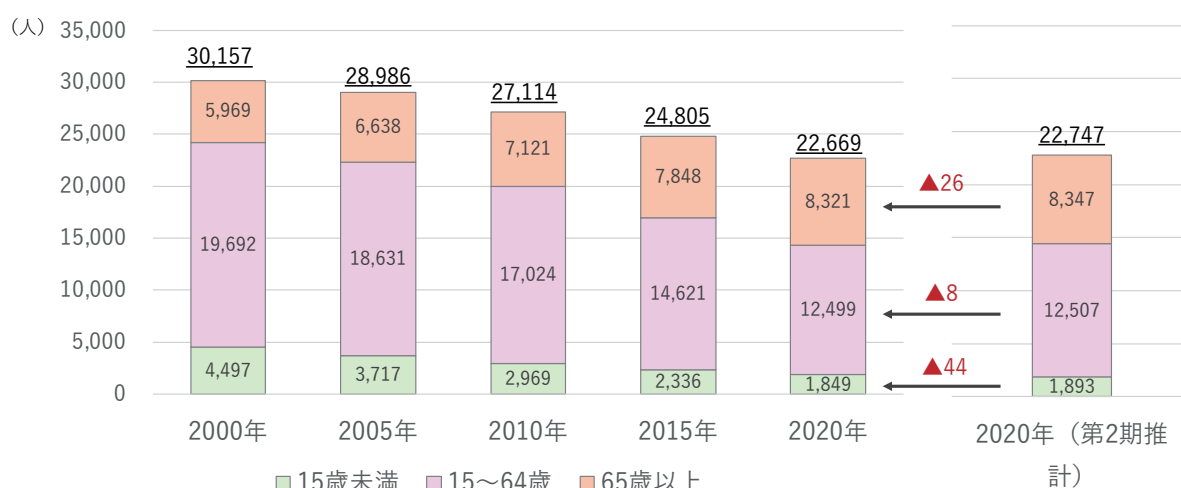
1 総人口について

第2期上野原市人口ビジョンにおいては、令和2年の人口が22,747人となっていました。一方で、令和2（2020）年国勢調査の結果では実績値として22,669人で、目標としている人口推移に対して▲78人という状況です。

年齢区分では、15歳未満が▲44人、15～64歳が▲8人、65歳以上が▲26人です。

上野原市第2期総合戦略の人口ビジョンでは、平成27（2015）年の国勢調査による国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の人口推計を基にして、その減少幅を抑制することを目標としています。第2期策定時の社人研の推計（令和2（2020）年の人口は22,473人）と比較すると196人のプラスとなっています。

図 第2期総合戦略における目標人口（R2年比較）



出典：国勢調査及び、上野原市第2期総合戦略

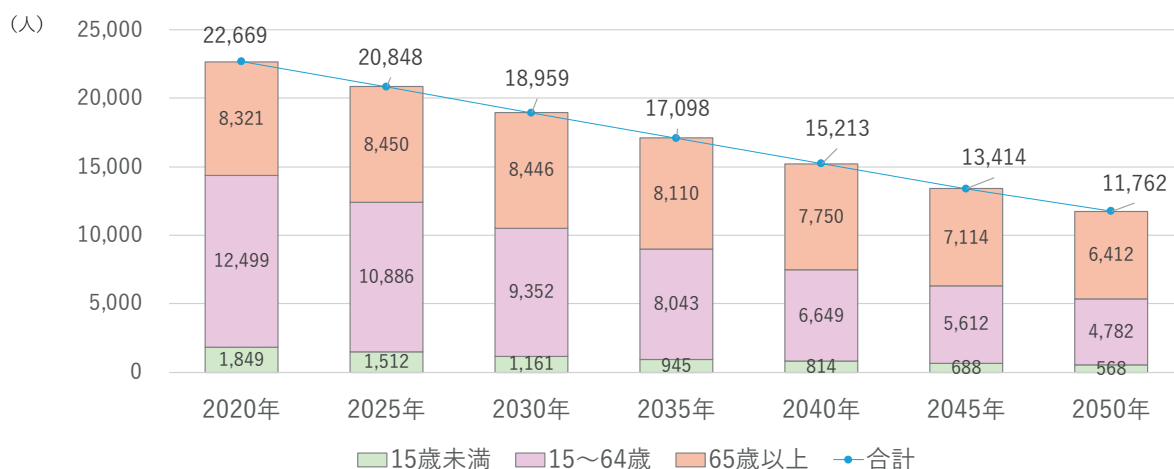
2 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の最新推計について

社人研が令和5（2023）年に発表した最新の推計では、上野原市の人口は第2期人口ビジョン策定時に引き続き、令和12（2030）年に2万人を切る推計となっています。

第2期人口ビジョン策定時の社人研推計では、令和7（2025）年が20,199人、令和12（2030）年が18,032人であったため当時の推計よりは直近数値は良化していると言えます。

一方で、令和17（2035）年までの15歳未満の人口（第2期策定時と最新推計）を比較すると令和2（2020）年で▲23人、令和7年（2025）年で+2人、令和12（2030）年で▲57人、令和17（2035）年で▲41人となっています。これは、直近の出生率の減少を反映したものと考えられます。

図 国立社会保障・人口問題研究所の人口推計結果（2023 年）



出典：国立社会保障・人口問題研究所、国勢調査（2020 年）

3 市独自の推計について（社人研との比較）について

市の最新数値（国勢調査実績等）を活用し、何も人口対策を行わなかった場合の推計結果は以下のとおりです。（※1）

社人研の推計と比較して令和 17（2035）年まで独自推計の方がやや上振れ、令和 22（2040）年以降に下振れをしています。

これは、国勢調査の令和 2（2020）年実績よりも社人研の令和 2（2020）年推計基準値の方が、主に 15～29 歳で 110 人程度多くなっていることが要因となります。（反対に、40 歳以降で合計 110 人程度少ない）

市独自推計の年齢区分別を見ると、主に 15～64 歳の年齢区分で 5 年毎に 1,000 人程度の減少が見られます。

※1：最新の推計では、90 歳台の（85 歳→89 歳～90 歳→94 歳、90 歳～→95 歳～）移動率・生残率も含めた推計値が配布されているため、本推計も数値を更新しています。

図 市独自推計と社人研推計の比較

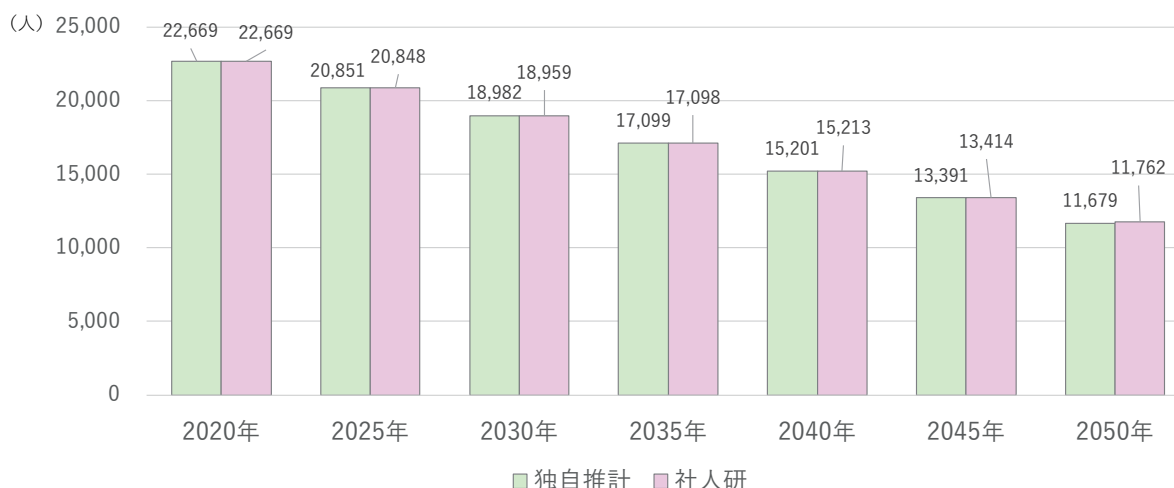
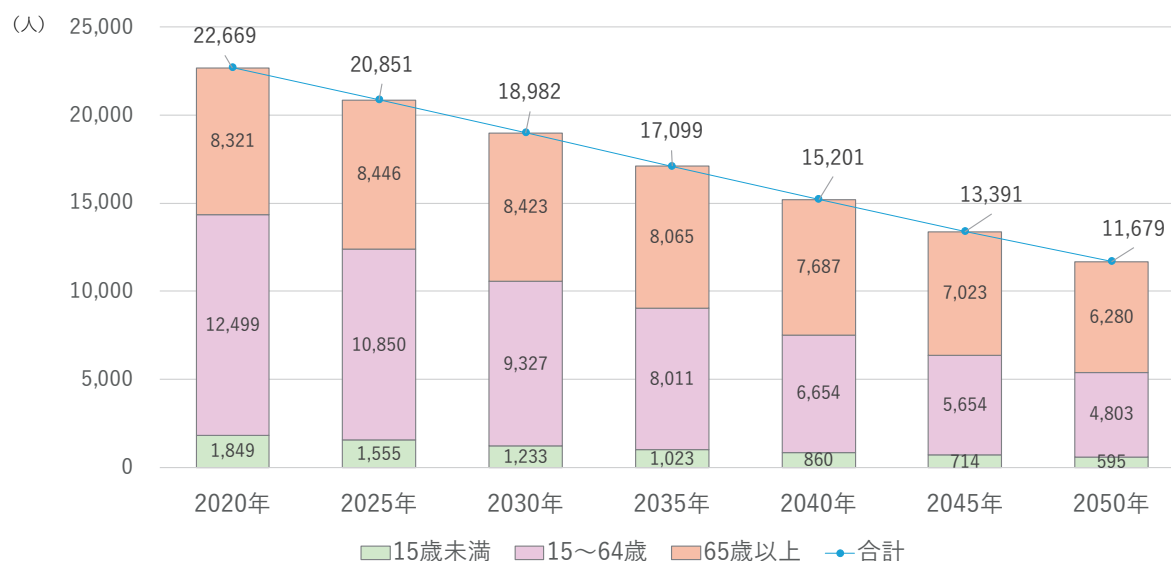


図 市独自推計（年齢区分別）



4 上野原市の目標人口に対する考え方

本市の目標人口を考えるにあたり、市民アンケート結果を基に、目標人口（総人口）、移動率（社会増減）、出生率のそれぞれにおいて、推計パターンを設定しシミュレーションを行いました。

（1）市民の人口減少に対するアンケート結果

市民に対して行ったアンケートでは、「人口が今よりも増加するよう取り組むべき」が40.6%で最多、「現状程度の人口を維持していくべき」が17.1%で、「現状の人口以上の状態を望む」人の割合は57.7%と半数を超えました。

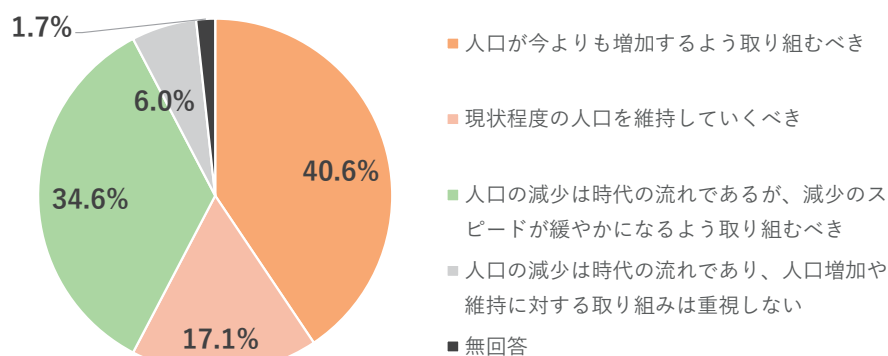
また、「人口の減少は時代の流れであり、人口増加や維持に対する取り組みは重視しない」が6.0%で、無回答の1.7%を除くと全体で、92.3%が人口減少に対して何かしらの取り組みを行うべきと考えていることがわかります。

人口に対する希望については年代別で見ると、30歳代で「人口の減少は時代の流れであるが、減少のスピードが緩やかになるように取り組むべき」の割合がやや他年代と比較して高い傾向です。

それ以外の年代では、全体と大きな差は見られませんでした。

問 22 上野原市の人口について、あなたのお考えに近いものを選んでください。(1つに○)

図 市民アンケートにおける人口についての考え (全体)



出典：上野原市まちづくりアンケート結果

図 市民アンケートにおける人口についての考え (世代別)

	n(Total)	人口が今よりも増加するよう取り組むべき	現状程度の人口を維持していくべき	人口の減少は時代の流れであるが、減少のスピードが緩やかになるよう取り組むべき	人口の減少は時代の流れであり、人口増加や維持に対する取り組みは重視しない	無回答
Total	638	40.6%	17.1%	34.6%	6.0%	1.7%
10歳代・20歳代	136	43.4%	20.6%	28.7%	6.6%	0.7%
30歳代	149	34.2%	14.1%	41.6%	7.4%	2.7%
40歳代	124	41.1%	17.7%	35.5%	5.6%	0.0%
50歳代	95	42.1%	18.9%	30.5%	7.4%	1.1%
60歳以上	129	42.6%	15.5%	34.9%	3.1%	3.9%
無回答	5	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%

各表側Totalとのポイント差 (n<30を除く)

■ 10pt 高 ■ 5pt 高 ■ 5pt 低 ■ 10pt 低

出典：上野原市まちづくりアンケート結果

(2) 推計パターンの設定

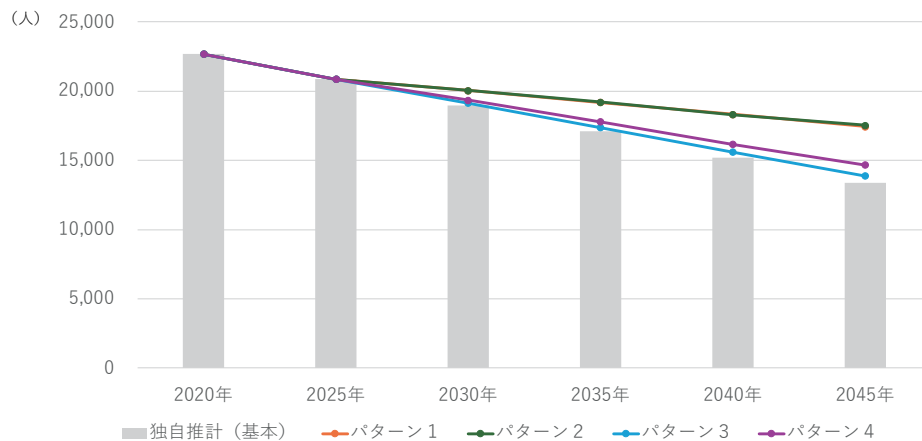
市民アンケートにおいて、人口は「現状維持または増加」が多数となっており、本戦略の検討に係る各種会議においても、「人口減少に対して対策を行わない」という声は聞かれていません。よって、下記のように推計パターンを設定します。

表 独自推計パターンの考え方

	目標人口の設定	移動率	出生率	2030年人口	2050年人口
パターン1	2030年に2万人維持	0～69歳で140%改善	現状値	20,049人	16,642人
パターン2	2030年に2万人維持	0～69歳で110%改善	山梨県平均1.46	20,054人	16,894人
パターン3	設定しない	0～69歳で20%改善	現状値	19,134人	12,262人
パターン4	設定しない	0～69歳で20%改善	山梨県平均1.46	19,348人	13,274人

※2：推計の移動率等の改善値が反映されるのは2030年からと設定。(※本戦略の開始が2025年のため)

図 独自推計パターン別の推計比較



パターン1：2030年に人口2万人を維持（移動率のみ改善パターン）

パターン2：2030年に人口2万人を維持（移動率が改善し、出生率が1.46となる）

パターン3：2030年に移動率が20%改善

パターン4：2030年に移動率が20%改善し、出生率が1.46となる

※パターン1～4まで2030年以降の移動率及び出生率は同数値

パターン1 2030年に人口2万人程度を維持することを目指して移動率のみを改善する（改善率：140%）

項目	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口	22,669	20,851	20,049	19,194	18,314	17,450	16,642	15,924	15,297
15歳未満	1,849	1,555	1,313	1,230	1,223	1,223	1,237	1,229	1,189
15～64歳	12,499	10,850	10,282	9,815	9,262	9,018	8,900	8,930	8,988
65歳以上	8,321	8,446	8,453	8,149	7,828	7,209	6,505	5,765	5,120
75歳以上	4,321	4,699	5,034	5,074	5,016	4,707	4,445	3,987	3,516
高齢化率	37%	41%	42%	42%	43%	41%	39%	36%	33%
後期高齢率	19%	23%	25%	26%	27%	27%	27%	25%	23%

パターン2 2030年に人口2万人程度を維持することを目指して移動率と出生率を改善する

（移動率改善：110%、出生率1.46）

項目	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口	22,669	20,851	20,054	19,198	18,293	17,542	16,894	16,363	15,958
15歳未満	1,849	1,555	1,530	1,660	1,852	1,821	1,851	1,898	1,914
15～64歳	12,499	10,850	10,077	9,408	8,643	8,551	8,586	8,755	8,986
65歳以上	8,321	8,446	8,447	8,131	7,798	7,169	6,457	5,710	5,058
75歳以上	4,321	4,699	5,034	5,071	5,006	4,689	4,418	3,956	3,481
高齢化率	37%	41%	42%	42%	43%	41%	38%	35%	32%
後期高齢率	19%	23%	25%	26%	27%	27%	26%	24%	22%

パターン3 移動率の改善を通じて、人口減少の緩和を図る（改善率：20%）

項目	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口	22,669	20,851	19,134	17,381	15,596	13,885	12,262	10,753	9,373
15歳未満	1,849	1,555	1,244	1,051	906	775	669	581	504
15～64歳	12,499	10,850	9,463	8,254	6,983	6,061	5,281	4,622	3,991
65歳以上	8,321	8,446	8,427	8,077	7,707	7,050	6,312	5,550	4,878
75歳以上	4,321	4,699	5,034	5,062	4,976	4,635	4,339	3,863	3,379
高齢化率	37%	41%	44%	46%	49%	51%	51%	52%	52%
後期高齢率	19%	23%	26%	29%	32%	33%	35%	36%	36%

パターン4 出生率と移動率の改善を通じて、人口減少の緩和を図る（移動率改善：20%、出生率：1.46）

項目	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口	22,669	20,851	19,348	17,787	16,167	14,676	13,274	11,879	10,610
15歳未満	1,849	1,555	1,458	1,457	1,477	1,290	1,166	1,084	1,001
15～64歳	12,499	10,850	9,463	8,254	6,983	6,337	5,795	5,245	4,731
65歳以上	8,321	8,446	8,427	8,077	7,707	7,050	6,312	5,550	4,878
75歳以上	4,321	4,699	5,034	5,062	4,976	4,635	4,339	3,863	3,379
高齢化率	37%	41%	44%	45%	48%	48%	48%	47%	46%
後期高齢率	19%	23%	26%	28%	31%	32%	33%	33%	32%

(3) 独自推計パターン別の比較

パターン1,2は、現状の移動率に対して100%以上の改善が前提となっているため社会流出が多くなっています。20～34歳においては、次の5年に当該年齢の人口を増やすほどの取り組みが必要となっています。(流出させない、または流出した以上の人口が流入する)

よって、人口維持を目指すものの、全国傾向と同様に上野原市でも人口減少が続くため、2万人の人口を維持することは現実的に難しいと考えられます。

現状、出生率が山梨県下で最も低いことから、出生率については抜本的な対策を取り組むことが必要です。

また、社会増減については、コロナ禍以降改善傾向が見られることから、移動率が改善していく状態(流出の減少、流入の増加)を加速させる必要があります。

表 独自推計パターン別の比較(年齢別移動状況・移動率改善を加えた年齢)

	2025年推計	2030年独自推計	パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
0歳～4歳	388	332	384	607	339	553
5歳～9歳	499	403	425	421	407	407
10歳～14歳	668	497	504	503	498	498
15歳～19歳	849	783	944	909	806	806
20歳～24歳	955	833	882	871	840	840
25歳～29歳	673	539	1,120	995	622	622
30歳～34歳	766	604	698	678	618	618
35歳～39歳	826	763	779	776	766	766
40歳～44歳	988	827	833	832	828	828
45歳～49歳	1,138	978	987	985	979	979
50歳～54歳	1,468	1,133	1,140	1,139	1,134	1,134
55歳～59歳	1,449	1,443	1,459	1,455	1,445	1,445
60歳～64歳	1,738	1,423	1,441	1,437	1,426	1,426
65歳～69歳	1,796	1,695	1,711	1,708	1,697	1,697

5 上野原市における目標人口

本市の将来人口の目標として、「独自推計パターン 4」の出生率を、山梨県全体の出生率(1.46)と同程度とし、移動率を、現在よりも 20% 改善することを目指し、各基本戦略に沿った諸政策を実施します。

目標総人口(2030年) 19,348 人

- ・合計特殊出生率 1.46
- ・年少人口 1,458 人(比率 7.5%)
- ・生産年齢人口 9,463 人(比率 48.9%)
- ・老年人口 8,427 人(比率 43.6%)

図 独自推計による将来の人口目標(年齢3区分)

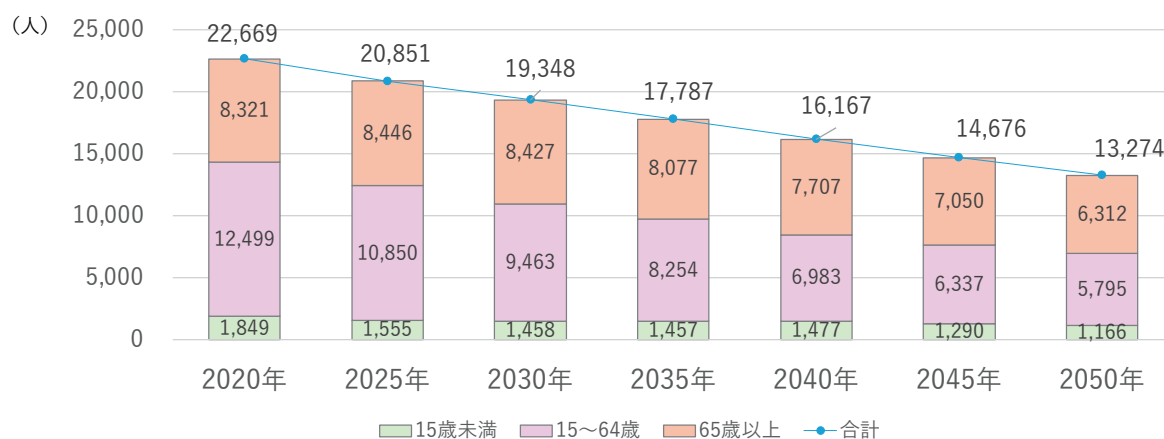


表 独自推計による 0～4 歳、出生人口、出産適齢女性人口

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
0～4歳人口	388人	553人	468人	399人	371人	348人
出生数	67～68人	96～97人	81～82人	69～70人	64～65人	60～61人
15～49歳女性	2,931人	2,568人	2,174人	1,854人	1,721人	1,616人

表 独自推計による5歳階級人口

(単位:人)

	2020年実績			2025年推計			2030年推計			2035年推計		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
0歳～4歳	450	247	203	388	209	179	553	300	253	468	254	214
5歳～9歳	653	317	336	499	280	219	407	219	188	582	315	267
10歳～14歳	746	382	364	668	324	344	498	277	221	407	217	190
15歳～19歳	1,013	533	481	849	440	409	806	405	401	605	347	258
20歳～24歳	1,173	665	508	955	556	400	840	451	389	797	416	381
25歳～29歳	839	458	381	673	364	308	622	354	268	550	289	261
30歳～34歳	831	466	365	766	426	340	618	337	281	570	327	243
35歳～39歳	956	484	472	826	434	392	766	420	346	619	332	287
40歳～44歳	1,125	568	557	988	497	491	828	434	394	772	423	349
45歳～49歳	1,484	778	706	1,138	547	591	979	489	490	822	428	394
50歳～54歳	1,478	747	731	1,468	769	699	1,134	545	589	978	489	489
55歳～59歳	1,757	869	888	1,449	727	721	1,445	759	686	1,117	539	578
60歳～64歳	1,841	973	868	1,738	851	888	1,426	717	709	1,423	748	675
65歳～69歳	2,024	1,068	956	1,796	946	850	1,697	820	878	1,398	694	704
70歳～74歳	1,976	1,015	962	1,951	1,026	926	1,695	879	817	1,617	770	847
75歳～79歳	1,536	724	813	1,811	915	896	1,770	896	874	1,549	773	776
80歳～84歳	1,268	555	713	1,288	573	715	1,542	734	808	1,520	723	796
85歳～89歳	873	317	555	935	382	553	982	409	573	1,198	539	659
90歳～94歳	469	127	342	517	147	370	550	194	356	592	214	378
95歳以上	174	39	135	149	31	118	190	46	144	203	63	141
合計	22,669	11,331	11,338	20,851	10,442	10,409	19,348	9,686	9,662	17,787	8,900	8,887

(単位:人)

	2040年推計			2045年推計			2050年推計			2055年推計			2060年推計		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
0歳～4歳	399	216	183	371	201	170	348	189	159	319	173	146	291	158	133
5歳～9歳	495	268	227	423	229	194	394	213	181	370	200	169	339	184	155
10歳～14歳	583	313	270	496	266	230	424	227	197	396	212	184	371	199	172
15歳～19歳	496	273	223	713	395	318	607	337	271	519	287	232	484	268	216
20歳～24歳	607	359	247	501	286	215	721	414	307	615	353	261	526	301	224
25歳～29歳	524	267	256	399	232	167	331	185	146	477	269	208	406	229	177
30歳～34歳	507	269	238	484	249	235	370	217	153	308	173	134	443	251	191
35歳～39歳	570	322	248	509	265	243	488	247	241	373	215	158	310	172	138
40歳～44歳	625	334	291	574	324	251	514	268	246	494	249	244	377	217	160
45歳～49歳	768	418	350	622	330	292	571	320	251	512	265	247	491	246	245
50歳～54歳	822	428	393	771	420	351	625	332	293	573	321	252	514	266	248
55歳～59歳	965	484	481	812	425	387	764	418	346	619	331	288	569	320	249
60歳～64歳	1,100	532	568	952	479	473	803	421	381	755	414	341	612	328	284
65歳～69歳	1,394	724	670	1,081	516	565	937	466	471	789	410	380	742	403	339
70歳～74歳	1,337	656	681	1,333	684	649	1,037	489	548	898	441	457	756	388	368
75歳～79歳	1,489	684	806	1,236	585	651	1,233	612	621	961	437	524	832	395	437
80歳～84歳	1,338	631	707	1,302	563	739	1,086	486	600	1,081	508	573	847	363	483
85歳～89歳	1,185	533	653	1,061	474	587	1,053	433	620	878	373	504	872	391	481
90歳～94歳	739	291	448	741	293	448	679	268	411	680	245	435	564	211	353
95歳以上	226	71	155	296	103	193	287	100	187	263	91	172	265	83	181
合計	16,167	8,072	8,095	14,676	7,319	7,357	13,274	6,642	6,632	11,879	5,969	5,910	10,610	5,373	5,237

表 独自推計パターン4と独自推計(基準値)の差分(人口対策を行った場合と行わなかった場合の差)

	2030年推計			2035年推計			2040年推計		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
0歳～4歳	221	121	100	194	106	88	173	94	79
5歳～9歳	3	2	1	236	129	107	208	113	94
10歳～14歳	1	1	0	4	2	2	237	128	109
15歳～19歳	23	13	9	19	12	7	20	12	8
20歳～24歳	7	2	5	29	16	14	24	15	9
25歳～29歳	83	50	33	76	41	35	85	46	39
30歳～34歳	13	7	7	87	52	35	79	43	37
35歳～39歳	2	1	1	15	8	8	88	52	37
40歳～44歳	1	0	0	4	2	2	17	8	9
45歳～49歳	1	1	0	2	1	1	5	3	2
50歳～54歳	1	1	0	2	2	0	3	2	1
55歳～59歳	2	1	2	3	1	2	4	3	1
60歳～64歳	3	2	1	5	2	3	5	2	2
65歳～69歳	2	1	1	5	3	2	7	3	4
70歳～74歳	2	0	2	5	2	3	7	4	3
75歳～79歳	0	0	0	2	0	2	5	2	3
80歳～84歳	0	0	0	0	0	0	2	0	2
85歳～89歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
90歳～94歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	366	203	163	688	379	309	967	529	438

表 地区別人口推計 | 大目地区

<大目>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	5	4	2	3	2	2
5～9歳	4	3	2	1	2	2
10～14歳	10	2	2	1	1	2
15～19歳	21	10	2	2	1	1
20～24歳	15	16	9	2	2	1
25～29歳	17	14	15	9	3	3
30～34歳	13	14	12	12	8	3
35～39歳	19	14	14	13	13	8
40～44歳	18	16	12	12	11	11
45～49歳	27	18	15	12	12	11
50～54歳	28	32	20	18	14	14
55～59歳	30	26	30	20	17	13
60～64歳	47	30	26	30	19	17
65～69歳	46	46	29	25	29	20
70～74歳	41	42	43	26	23	26
75～79歳	42	39	40	40	25	22
80～84歳	24	32	30	30	30	19
85～89歳	19	14	20	20	21	21
90歳以上	19	10	7	13	12	13
(女性)						
0～4歳	6	5	2	4	2	2
5～9歳	10	10	8	4	6	4
10～14歳	8	8	8	6	2	4
15～19歳	14	9	9	10	8	3
20～24歳	15	9	6	7	8	7
25～29歳	14	4	2	3	3	3
30～34歳	15	7	2	1	1	2
35～39歳	7	17	8	2	1	1
40～44歳	20	5	13	6	1	1
45～49歳	22	18	5	11	5	1
50～54歳	25	24	20	5	12	5
55～59歳	32	22	21	18	4	11
60～64歳	44	32	22	21	18	4
65～69歳	46	42	31	21	20	17
70～74歳	35	47	43	31	21	20
75～79歳	48	35	47	44	32	22
80～84歳	44	43	31	43	41	30
85～89歳	52	48	46	34	47	46
90歳以上	64	46	41	38	28	41
合計	966	813	695	598	505	433

表 地区別人口推計 | 甲東地区

＜甲東＞	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	8	14	5	5	6	4
5～9歳	11	7	13	4	5	5
10～14歳	21	10	6	12	4	5
15～19歳	35	19	9	6	12	4
20～24歳	26	22	13	7	4	8
25～29歳	13	13	11	8	4	3
30～34歳	12	9	9	8	5	3
35～39歳	10	11	7	8	7	5
40～44歳	27	12	13	9	10	8
45～49歳	30	25	11	12	8	9
50～54歳	45	26	21	9	10	7
55～59歳	42	48	28	22	10	11
60～64歳	55	42	47	28	22	10
65～69歳	49	51	39	45	26	21
70～74歳	28	47	50	37	43	25
75～79歳	21	28	47	49	36	43
80～84歳	30	16	21	36	37	28
85～89歳	15	19	11	14	26	27
90歳以上	5	12	15	10	14	26
(女性)						
0～4歳	6	4	2	4	2	2
5～9歳	11	6	4	2	4	2
10～14歳	18	9	5	3	2	4
15～19歳	29	15	8	4	3	3
20～24歳	18	20	11	7	4	3
25～29歳	20	9	11	6	5	3
30～34歳	10	15	8	9	6	4
35～39歳	22	10	16	7	9	6
40～44歳	20	24	11	17	9	10
45～49歳	36	20	25	11	16	8
50～54歳	30	33	18	23	10	15
55～59歳	34	31	34	19	23	10
60～64歳	48	33	30	33	18	22
65～69歳	22	49	33	31	34	18
70～74歳	41	23	51	35	32	36
75～79歳	34	34	19	43	30	28
80～84歳	45	30	30	17	39	27
85～89歳	24	33	21	22	12	29
90歳以上	18	13	18	11	11	7
合計	969	842	731	633	558	489

表 地区別人口推計 | 巖地区

<歳>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	61	62	49	68	52	35
5～9歳	134	82	89	65	88	68
10～14歳	142	142	89	93	68	92
15～19歳	254	191	193	133	137	101
20～24歳	314	240	202	199	138	144
25～29歳	113	100	75	75	76	51
30～34歳	119	113	98	75	75	76
35～39歳	143	116	102	94	71	71
40～44歳	202	152	127	108	101	78
45～49歳	171	200	145	123	106	99
50～54歳	224	167	189	138	119	102
55～59歳	271	218	162	185	136	117
60～64歳	261	269	214	160	183	135
65～69歳	237	255	266	211	158	181
70～74歳	162	224	249	251	202	152
75～79歳	126	147	205	219	222	180
80～84歳	90	104	119	167	180	184
85～89歳	40	52	63	75	110	120
90歳以上	14	15	21	28	35	52
(女性)						
0～4歳	105	50	30	39	31	21
5～9歳	121	110	53	31	41	32
10～14歳	147	127	116	56	32	43
15～19歳	218	176	155	147	72	42
20～24歳	226	172	147	148	141	70
25～29歳	121	77	62	61	64	59
30～34歳	121	94	64	52	51	55
35～39歳	157	122	99	63	52	51
40～44歳	197	170	138	107	69	56
45～49歳	179	197	173	132	102	65
50～54歳	287	180	196	174	132	103
55～59歳	244	284	177	192	170	129
60～64歳	225	238	280	172	186	166
65～69歳	233	230	239	284	176	190
70～74歳	172	224	221	228	273	170
75～79歳	139	163	213	213	221	266
80～84歳	106	119	137	184	186	194
85～89歳	81	83	90	107	145	149
90歳以上	46	63	62	65	79	108
合計	6,209	5,726	5,309	4,922	4,480	4,007

表 地区別人口推計 | 大鶴地区

<大鶴>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	8	7	8	12	9	10
5～9歳	13	9	9	9	14	11
10～14歳	13	10	7	6	7	10
15～19歳	22	13	10	8	7	7
20～24歳	30	20	13	10	7	6
25～29歳	19	13	9	7	5	4
30～34歳	17	18	12	9	7	5
35～39歳	17	15	15	11	8	5
40～44歳	26	16	14	14	10	8
45～49歳	16	28	16	15	15	11
50～54歳	29	18	31	18	17	16
55～59歳	39	32	20	34	20	19
60～64歳	47	40	33	21	35	21
65～69歳	59	46	39	32	21	34
70～74歳	41	51	41	34	28	18
75～79歳	38	32	40	31	27	22
80～84歳	15	24	20	25	20	17
85～89歳	14	13	22	19	25	20
90歳以上	9	7	7	14	12	16
(女性)						
0～4歳	8	2	5	8	7	7
5～9歳	9	13	3	9	14	11
10～14歳	9	11	16	4	11	18
15～19歳	22	10	12	19	4	14
20～24歳	21	20	10	14	21	5
25～29歳	16	18	18	10	14	22
30～34歳	17	11	13	14	8	11
35～39歳	22	15	10	12	13	7
40～44歳	12	28	20	14	15	16
45～49歳	24	10	24	16	11	12
50～54歳	34	25	10	25	17	11
55～59歳	38	33	24	10	23	17
60～64歳	48	35	30	22	9	21
65～69歳	47	46	33	29	21	9
70～74歳	28	48	47	34	30	21
75～79歳	30	24	41	41	30	27
80～84歳	38	29	23	41	41	30
85～89歳	39	30	22	18	33	33
90歳以上	47	26	19	13	11	21
合計	981	846	746	682	627	573

表 地区別人口推計 | 島田地区

<島田>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	28	14	17	26	28	26
5～9歳	30	29	16	18	27	29
10～14歳	31	28	28	15	16	25
15～19歳	63	30	27	30	16	18
20～24歳	48	45	25	21	24	13
25～29歳	35	27	26	16	15	16
30～34歳	27	33	26	25	14	13
35～39歳	39	33	38	31	30	18
40～44歳	91	43	38	42	35	33
45～49歳	71	74	34	30	34	28
50～54歳	68	66	68	31	28	32
55～59歳	70	73	71	74	34	30
60～64歳	89	73	76	74	78	36
65～69歳	95	79	67	69	67	70
70～74歳	88	89	77	63	65	64
75～79歳	79	76	78	65	53	55
80～84歳	35	62	59	62	51	43
85～89歳	28	25	48	47	51	43
90歳以上	8	12	11	24	26	28
(女性)						
0～4歳	16	27	17	25	26	25
5～9歳	16	25	42	27	39	41
10～14歳	27	19	30	50	32	47
15～19歳	58	28	20	33	56	37
20～24歳	48	43	22	19	30	52
25～29歳	29	31	30	18	16	24
30～34歳	36	28	32	31	20	18
35～39歳	40	32	26	29	28	17
40～44歳	64	43	35	28	31	30
45～49歳	56	64	44	34	27	30
50～54歳	64	59	67	46	36	28
55～59歳	63	66	61	68	47	37
60～64歳	84	67	71	65	72	50
65～69歳	107	75	59	63	58	64
70～74歳	93	100	70	55	59	54
75～79歳	63	89	97	69	54	58
80～84歳	71	53	74	82	59	46
85～89歳	39	47	34	49	56	40
90歳以上	23	21	24	17	26	29
合計	2,020	1,833	1,685	1,571	1,464	1,347

表 地区別人口推計 | 上野原地区

<上野原>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	160	126	113	166	144	130
5～9歳	173	154	129	106	158	135
10～14歳	219	173	159	128	105	156
15～19歳	294	223	179	180	143	118
20～24歳	335	291	249	194	194	157
25～29歳	251	247	213	215	173	169
30～34歳	248	232	227	195	197	158
35～39歳	271	244	214	222	189	193
40～44歳	346	258	239	204	213	183
45～49歳	343	359	258	244	208	218
50～54歳	383	358	365	263	251	214
55～59歳	347	367	340	352	255	244
60～64歳	422	336	352	328	339	247
65～69歳	442	405	326	339	318	329
70～74歳	337	409	385	301	316	297
75～79歳	266	298	362	329	258	275
80～84歳	194	222	246	302	276	218
85～89歳	118	131	160	183	232	216
90歳以上	61	44	50	70	84	109
(女性)						
0～4歳	149	99	111	158	138	121
5～9歳	149	137	92	102	146	125
10～14歳	196	144	133	88	98	140
15～19歳	282	200	149	144	96	110
20～24歳	290	224	170	144	138	94
25～29歳	196	218	179	155	138	128
30～34歳	214	169	203	167	146	132
35～39歳	252	230	188	214	178	155
40～44歳	303	240	228	181	206	170
45～49歳	344	336	272	243	193	217
50～54歳	361	336	326	268	238	190
55～59歳	339	358	333	321	263	234
60～64歳	364	334	357	326	315	259
65～69歳	402	363	328	354	325	314
70～74歳	396	383	345	310	337	311
75～79歳	346	357	348	320	288	313
80～84歳	279	320	326	325	302	273
85～89歳	208	218	242	256	258	242
90歳以上	115	133	135	143	156	159
合計	10,393	9,672	9,031	8,540	8,012	7,453

表 地区別人口推計 | 桐原地区

<桐原>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	7	8	3	3	2	2
5～9歳	12	4	5	2	2	2
10～14歳	15	6	2	3	1	2
15～19歳	13	12	6	2	3	1
20～24歳	18	10	10	6	2	3
25～29歳	15	10	9	11	7	3
30～34歳	16	12	8	7	9	5
35～39歳	27	10	12	9	8	10
40～44歳	31	25	8	10	8	7
45～49歳	27	26	24	8	10	8
50～54歳	37	25	30	28	9	12
55～59歳	45	33	23	28	27	8
60～64歳	66	47	33	23	28	26
65～69歳	58	61	47	32	23	28
70～74歳	42	56	58	42	29	21
75～79歳	45	36	53	53	39	28
80～84歳	23	37	27	40	40	30
85～89歳	17	17	23	17	26	27
90歳以上	10	8	9	15	11	17
(女性)						
0～4歳	5	2	4	4	2	2
5～9歳	14	6	3	6	6	4
10～14歳	11	12	5	2	5	4
15～19歳	14	8	14	6	2	7
20～24歳	18	5	5	11	5	1
25～29歳	14	9	1	1	3	2
30～34歳	11	14	5	1	1	2
35～39歳	15	13	17	6	1	1
40～44歳	24	11	9	11	4	1
45～49歳	23	17	10	8	10	4
50～54歳	18	23	19	11	9	11
55～59歳	43	18	20	17	10	8
60～64歳	42	43	18	20	17	10
65～69歳	58	41	40	17	19	16
70～74歳	50	56	42	41	17	19
75～79歳	39	44	56	43	42	18
80～84歳	42	35	38	51	40	39
85～89歳	31	33	37	43	57	44
90歳以上	23	12	28	30	36	49
合計	1,019	845	761	668	570	482

表 地区別人口推計 | 西原地区

＜西原＞	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	3	0	2	2	2	2
5～9歳	4	5	0	2	2	2
10～14歳	6	4	5	0	2	2
15～19歳	6	7	4	6	0	2
20～24歳	3	0	4	3	4	0
25～29歳	2	1	0	3	3	3
30～34歳	5	4	1	0	1	1
35～39歳	10	3	4	1	0	1
40～44歳	12	13	4	5	1	0
45～49歳	14	12	12	4	5	1
50～54歳	22	11	10	9	3	4
55～59歳	43	21	12	11	10	3
60～64歳	40	45	21	12	11	10
65～69歳	38	40	43	19	11	10
70～74歳	21	28	39	40	18	11
75～79歳	22	16	28	38	39	18
80～84歳	26	11	12	21	29	30
85～89歳	17	18	7	9	15	21
90歳以上	7	7	14	8	8	14
(女性)						
0～4歳	5	4	1	2	0	0
5～9歳	2	4	4	1	2	0
10～14歳	9	2	3	3	1	2
15～19歳	5	9	2	3	3	1
20～24歳	5	1	6	1	3	3
25～29歳	3	4	1	4	2	2
30～34歳	4	2	3	1	3	2
35～39歳	6	5	2	3	1	3
40～44歳	6	8	5	2	3	1
45～49歳	13	7	8	5	2	3
50～54歳	16	13	6	7	5	2
55～59歳	19	15	13	6	7	5
60～64歳	31	21	15	13	6	7
65～69歳	19	30	21	15	13	6
70～74歳	18	19	31	21	16	14
75～79歳	34	15	16	27	18	14
80～84歳	35	29	13	14	24	16
85～89歳	24	23	20	10	10	18
90歳以上	14	12	12	10	5	5
合計	569	469	404	341	288	239

表 地区別人口推計 | 秋山地区

<秋山>	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
(男性)						
0～4歳	25	12	10	14	11	6
5～9歳	10	24	17	13	19	14
10～14歳	35	7	26	18	14	20
15～19歳	41	28	9	39	27	20
20～24歳	29	22	29	10	40	28
25～29歳	50	33	7	11	4	15
30～34歳	35	31	33	7	10	4
35～39歳	37	38	28	31	7	10
40～44歳	41	33	41	30	34	7
45～49歳	46	36	32	40	30	33
50～54歳	50	44	34	30	39	28
55～59歳	89	50	43	33	29	38
60～64歳	87	90	49	42	33	29
65～69歳	71	84	89	49	42	32
70～74歳	58	67	82	84	46	40
75～79歳	61	50	61	73	74	42
80～84歳	41	46	40	50	60	62
85～89歳	32	28	28	26	33	39
90歳以上	14	12	11	13	12	16
(女性)						
0～4歳	24	10	6	8	7	2
5～9歳	33	25	10	6	8	6
10～14歳	32	32	26	10	6	8
15～19歳	33	27	39	33	13	8
20～24歳	22	15	22	37	31	12
25～29歳	31	12	5	9	16	13
30～34歳	29	25	10	5	7	14
35～39歳	32	28	26	10	5	7
40～44歳	40	29	31	28	11	5
45～49歳	39	38	30	30	27	10
50～54歳	65	39	38	30	30	27
55～59歳	68	62	39	37	30	30
60～64歳	79	65	62	38	35	29
65～69歳	63	79	65	62	39	36
70～74歳	56	61	76	62	60	37
75～79歳	60	52	58	74	59	59
80～84歳	55	54	44	51	65	52
85～89歳	35	40	41	35	40	51
90歳以上	29	16	30	29	26	30
合計	1,677	1,445	1,327	1,207	1,079	919

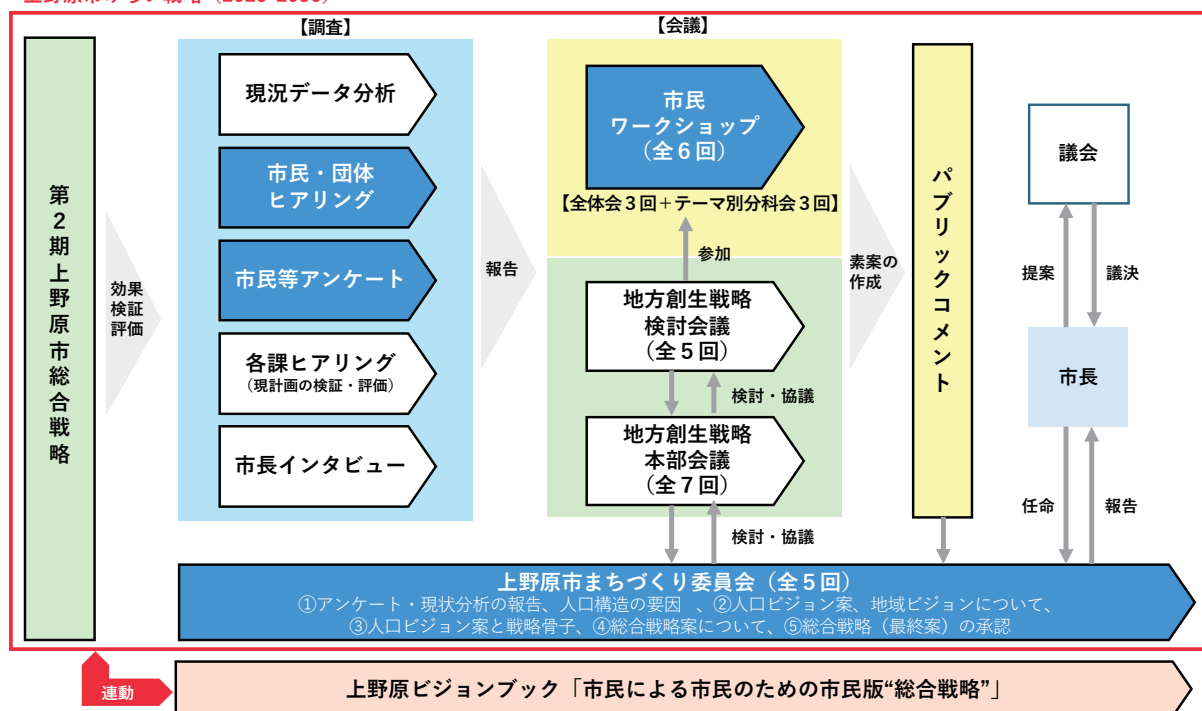
IV 上野原市みらい戦略

1 市民意向の把握と策定の流れ

本戦略の策定にあたっては、市民・団体ヒアリングや市民アンケート、市民ワークショップ、上野原市まちづくり委員会、パブリックコメントと各策定過程に応じて市民からの意見聴取を行っています。策定の流れについては、下記のとおりです。

図 上野原市みらい戦略の策定の流れ

上野原市みらい戦略（2025-2030）



2 市民アンケート結果

(1) 調査の目的

本調査は、新たな総合戦略の策定に当たって、市民の皆さまが日常感じている生活環境や出産・子育て・教育環境、若者の移住の推進に対する課題などを率直にお伺いし、市民の皆さまのニーズを踏まえた総合戦略立案を進めていくことを目的として実施しました。

(2) 調査の目概要

調査対象は、上野原市に在住の18歳以上70歳未満の男女の中から無作為に抽出した1,500名を対象に配布・回収を行い、令和6（2023）年3月4日から3月25日までを調査期間として実施しました。配布数1,500票に対し回収数は638票、回収率は42.5%でした。

表 調査結果概要

調査対象	上野原市に在住の18歳以上70歳未満の男女
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収及びWEBによる回答
調査時期	令和6年3月
配布数	1,500票
回収数	638票
回収率	42.5%

(3) 回答者の属性

年齢・性別ともにバランスよく回答を得られていますが、世帯構成は、前回調査から「二世帯同居」が大幅に減少しています。

図 性別

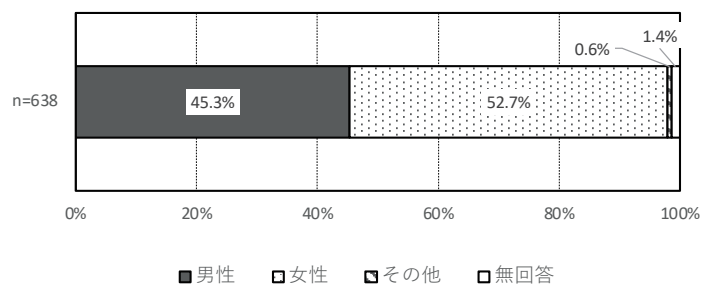


図 年齢

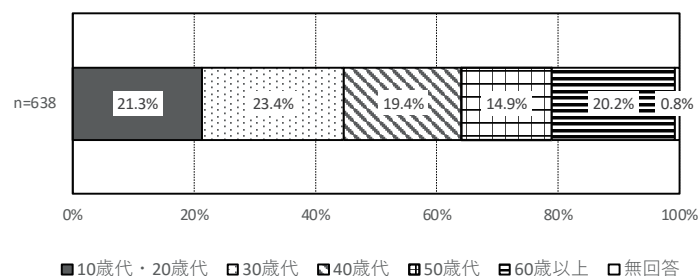


図 世帯構成

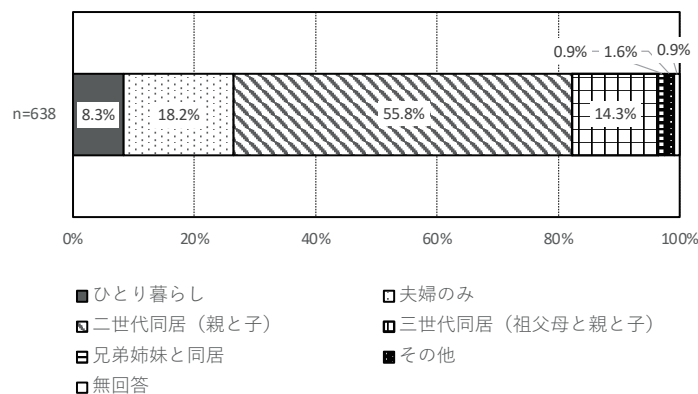
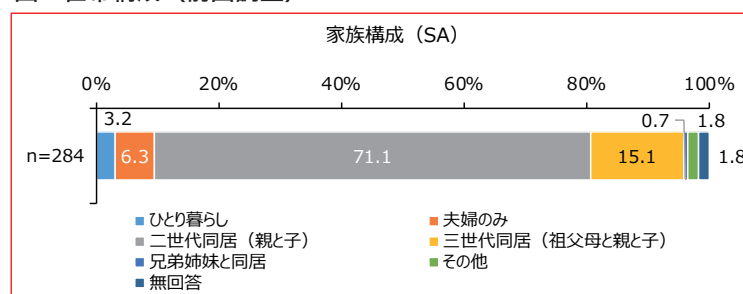


図 世帯構成 (前回調査)

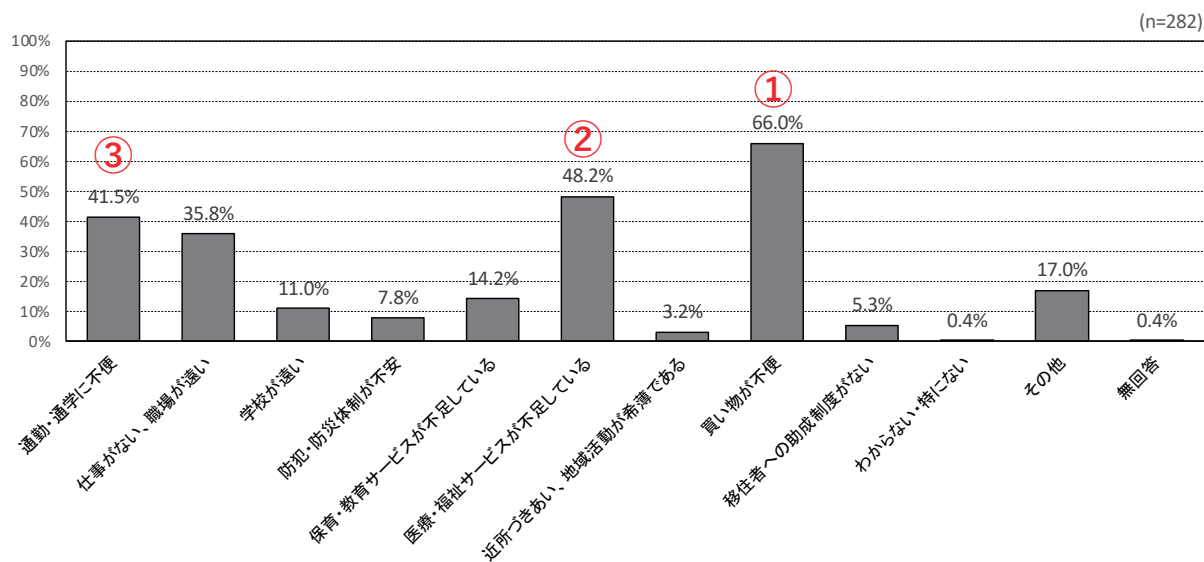
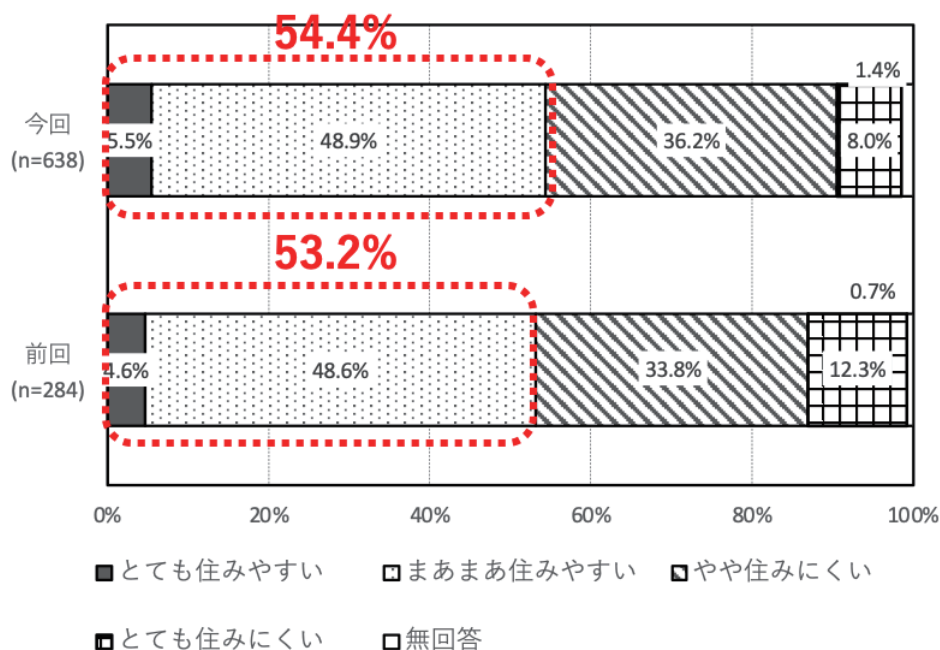


(4) 住みやすさ

住みやすさについては、前回調査と同水準の結果となっています。「とても住みやすい」+「まあまあ住みやすい」の合計、今回：54.4%、前回：53.2%

住みにくい理由としては、「買い物に不便」、「医療・福祉サービスが不足している」、「通勤通学に不便」の順で高くなっています。

図 住みやすさ



(5) 今後の居住意向

今後の居住意向は、上野原市が49.9%、山梨県が76.5%（「ぜひ住みたい」＋「どちらかといえば住みたい」の合計）となっており、県と比較して約25ポイント低くなっています。

年齢別でみると、30歳代の今後の居住意向が43.0%で低くなっており、10歳代・20歳代、30歳代で「どちらかといえば住みたくない」と「ぜひ市外へ移りたい」の合計が高くなっています。

図 今後の居住意向

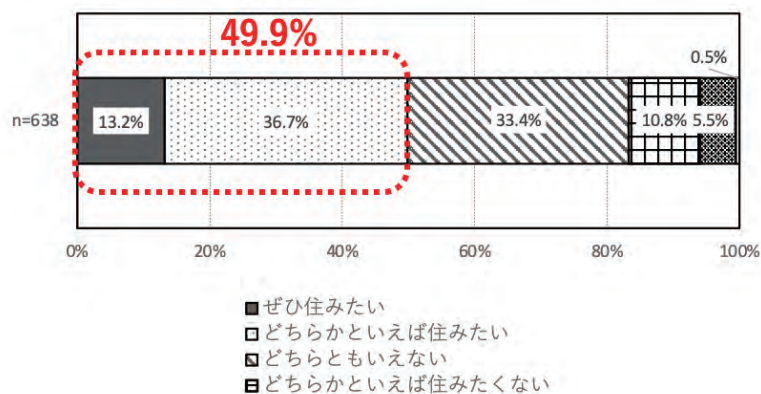


図 今後の居住意向（山梨県）

問2 あなたは、山梨県にこれからも住み続けたいと思いますか。
次の中から1つだけ選んでください。

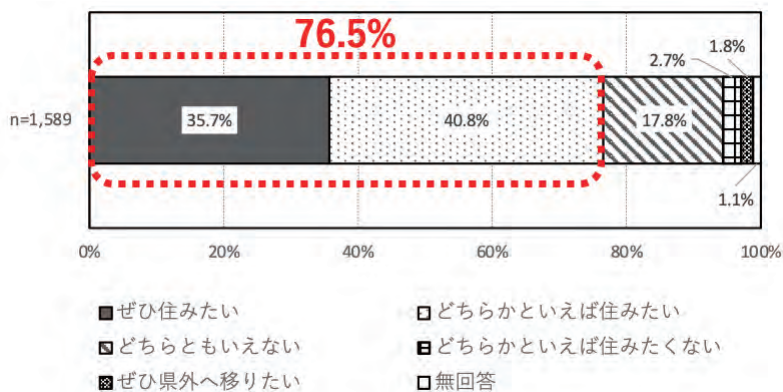


表 今後の居住意向（性別・年代別）

	n(Total)	ぜひ住みたい	どちらかといえば住みたい	どちらともいえない	どちらかといえば住みたくない	ぜひ市外へ移りたい	無回答
Total	638	13.2%	36.7%	33.4%	10.8%	5.5%	0.5%
男性	289	15.2%	36.7%	31.8%	12.1%	3.8%	0.3%
女性	336	11.3%	37.2%	34.8%	9.2%	7.1%	0.3%
その他	4	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
無回答	9	22.2%	11.1%	33.3%	22.2%	0.0%	11.1%
10歳代・20歳代	136	16.9%	28.7%	33.8%	11.0%	9.6%	0.0%
30歳代	149	7.4%	35.6%	35.6%	14.8%	6.7%	0.0%
40歳代	124	19.4%	33.9%	33.9%	9.7%	3.2%	0.0%
50歳代	95	11.6%	37.9%	36.8%	9.5%	4.2%	0.0%
60歳以上	129	11.6%	48.8%	25.6%	8.5%	3.1%	2.3%
無回答	5	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%

各表側Totalとのポイント差（n<30を除く）

■ 10pt 高 ■ 5pt 高 ■ 5pt 低 ■ 10pt 低

(6) 市民の幸福度

上野原市の幸福度は6.28となっており、全国平均6.47とほぼ同水準となっています。(-0.19ポイント)

点数分布でみると、男性は5点が最も多く、女性は8点が最も多くなっています。

図 幸福度（上野原市）

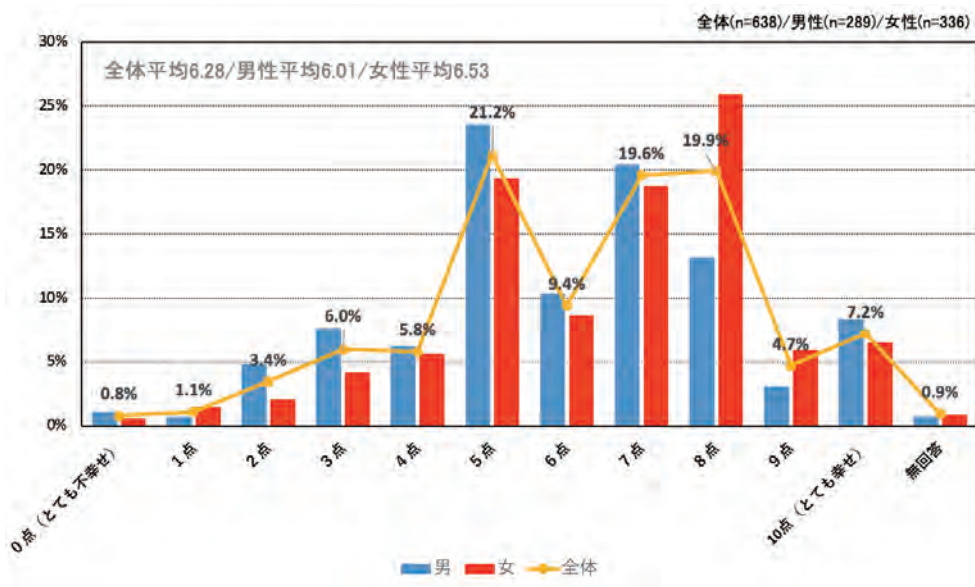


図 幸福度（全国）

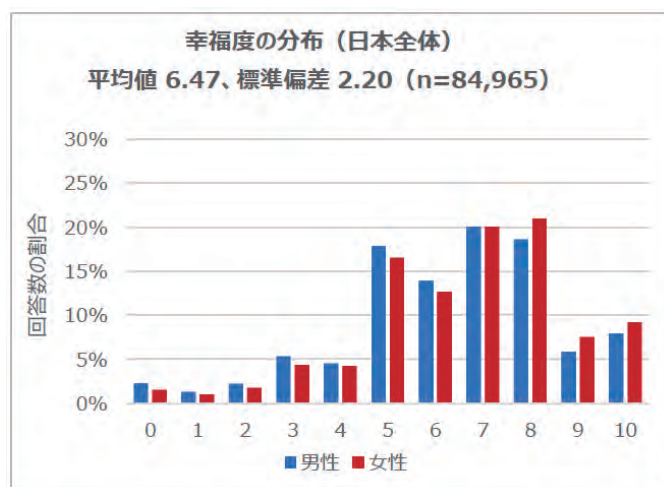


表 幸福度平均（性別・年代別）

	n(Total)	無回答	平均値	中央値	標準偏差
Total	638	0.9%	6.3	7	2.15
男性	289	0.7%	6.0	6	2.21
女性	336	0.9%	6.5	7	2.07
その他	4	0.0%	5.5	6	2.65
無回答	9	11.1%	6.0	6.5	2.20
10歳代・20歳代	136	0.7%	6.1	7	2.21
30歳代	149	0.0%	6.0	6	2.41
40歳代	124	0.0%	6.6	7	2.08
50歳代	95	0.0%	6.6	7	1.97
60歳以上	129	3.1%	6.3	7	1.94
無回答	5	20.0%	5.8	6	1.50

(7) 幸せを感じる理由

幸せを感じる理由は、「心身の健康」、「収入や資産が多い」、「快適な居住環境」、「恵まれた人間関係」の順で高くなっています。

性別では、男性が「時間的なゆとり」が高く、女性が「恵まれた人間関係」が高くなっています。

年齢別では、10歳代・20歳代で「時間的なゆとり」が、30歳代で「収入や資産が多い」が他の年代と比較し最も高くなっています。

図 幸せを感じる理由

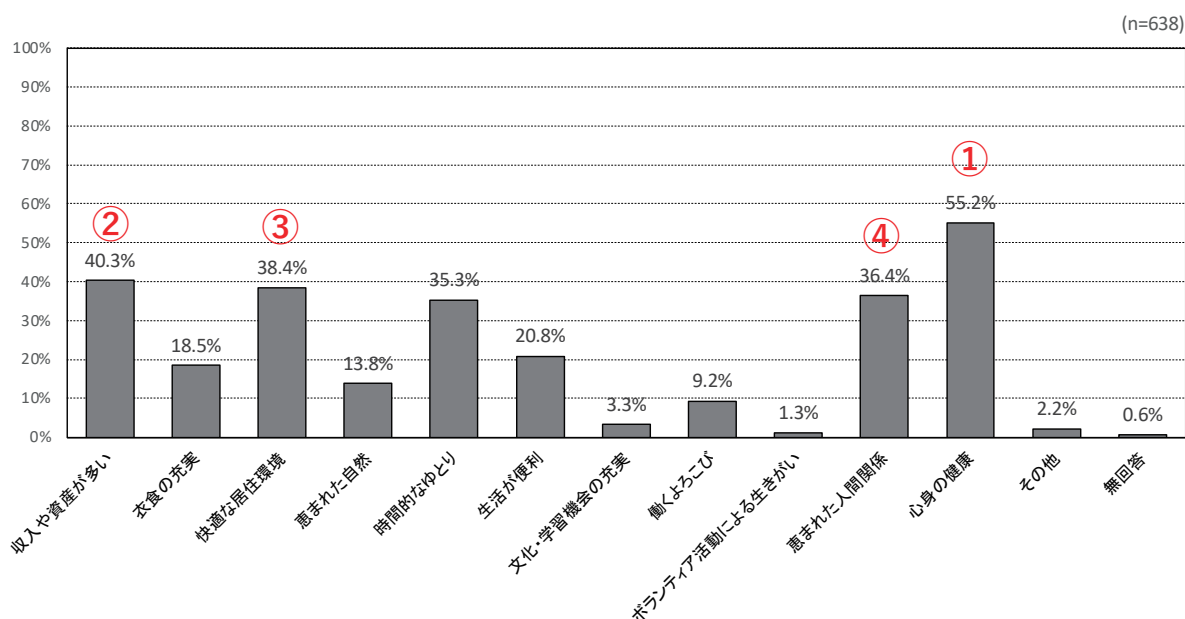


表 幸せを感じる理由（年代別）

	n(Total)	収入や資産が多い	衣食の充実	快適な居住環境	恵まれた自然	時間的なゆとり	生活が便利	文化・学習機会の充実	働くよこび	社会奉仕（ボランティア）活動による生きがい	恵まれた人間関係	心身の健康	その他	無回答
Total	638	40.3%	18.5%	38.4%	13.8%	35.3%	20.8%	3.3%	9.2%	1.3%	36.4%	55.2%	2.2%	0.6%
男性	289	41.9%	16.3%	37.4%	14.9%	39.8%	20.1%	1.7%	10.0%	2.1%	29.4%	51.9%	2.8%	0.7%
女性	336	38.7%	20.5%	39.6%	12.8%	30.7%	22.0%	4.5%	8.3%	0.6%	42.6%	57.4%	1.8%	0.6%
その他	4	50.0%	0.0%	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	75.0%	0.0%	0.0%
無回答	9	44.4%	22.2%	22.2%	11.1%	55.6%	11.1%	11.1%	22.2%	0.0%	22.2%	66.7%	0.0%	0.0%
10歳代・20歳代	136	48.5%	23.5%	34.6%	14.0%	42.6%	25.0%	3.7%	2.9%	0.7%	38.2%	40.4%	0.7%	0.0%
30歳代	149	52.3%	21.5%	38.9%	7.4%	33.6%	24.8%	3.4%	6.0%	0.7%	34.9%	49.0%	4.7%	0.0%
40歳代	124	37.1%	21.8%	33.9%	12.9%	39.5%	12.9%	5.6%	10.5%	0.0%	37.9%	58.9%	2.4%	0.8%
50歳代	95	35.8%	13.7%	50.5%	14.7%	37.9%	18.9%	1.1%	14.7%	1.1%	37.9%	57.9%	1.1%	1.1%
60歳以上	129	24.8%	9.3%	37.2%	20.9%	23.3%	21.7%	2.3%	14.7%	3.9%	33.3%	72.1%	1.6%	1.6%
無回答	5	20.0%	40.0%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%

各表側Totalとのポイント差（n<30を除く）

■ 10pt 高 ■ 5pt 高 ■ 5pt 低 ■ 10pt 低

(8) 上野原市のおすすめ度

市のおすすめ度は、平均で 4.18 ポイントで、男女ともに 3 割弱が 5 点を選び、8 点以上をつけた方は 1 割弱となっています。

年齢別では、30 歳代が他の年代に比べて平均 3.7 ポイントと低くなっています。

「企業やブランドに対してどれくらいの愛着や信頼があるか」を数値化する指標として用いられる NPS（ネットプロモータースコア）視点でみると、推奨者となる 9 点、10 点が 2.7%と低くなっています。

図 市のおすすめ度

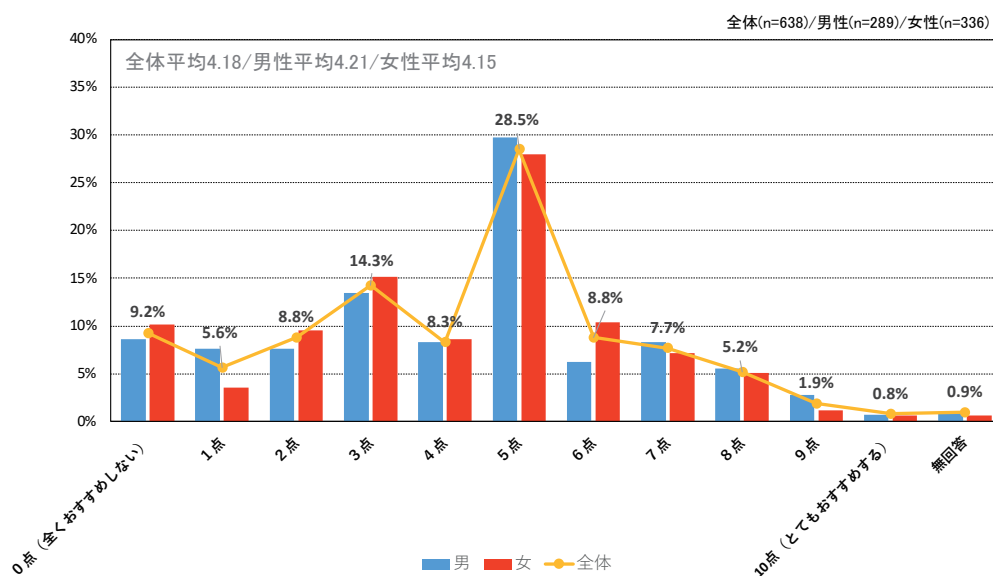


表 市のおすすめ度（年代別平均）

	n(Total)	無回答	平均値	中央値	標準偏差
Total	638	0.9%	4.2	5	2.33
10歳代・20歳代	136	0.7%	4.4	5	2.55
30歳代	149	0.7%	3.7	4	2.53
40歳代	124	0.8%	4.3	5	2.35
50歳代	95	1.1%	4.4	5	2.04
60歳以上	129	1.6%	4.1	5	1.94
無回答	5	0.0%	4.6	5	2.19

図 NPS スコア

企業やブランドに対してどれくらいの愛着や信頼があるか」を数値化する指標（ネットプロモータースコア）

NPS® のスコアの計測方法

① アンケートを 11 段階で回答



② 回答結果を元に、NPS® スコアを算出

$$\text{推奨者の割合} - \text{批判者の割合} = \text{NPS®スコア}$$

$$2.7\% - 83.5\% = -80.9\%$$

(9) 結婚の状況

結婚の状況については、44.2%が独身となっています。特に10歳代・20歳代で87.5%、30歳代で53.1%と高くなっています。

必要な結婚の支援としては、「働く場の創出支援」、「住まいの支援」、「結婚祝い金など経済的支援」の順で高くなっています。

図 結婚の状況

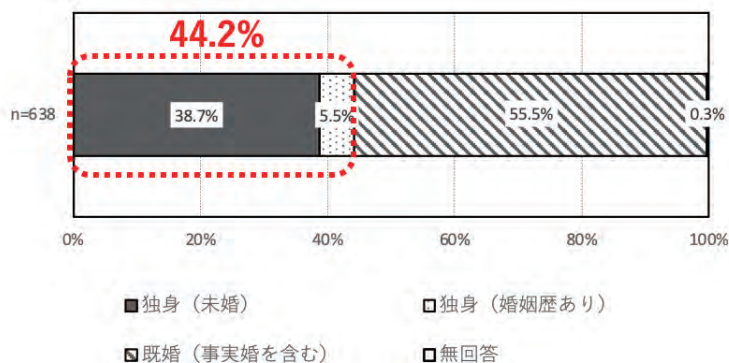


図 結婚の状況

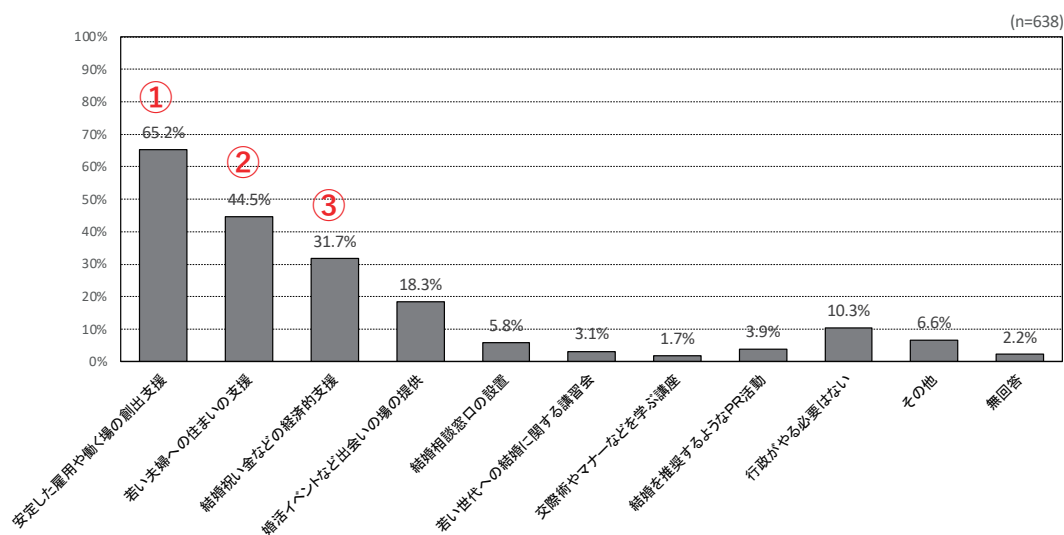


表 結婚の状況（性別・年代別）

	n(Total)	独身 (未婚)	独身 (婚姻歴 あり)	既婚 (事実婚を 含む)	無回答
Total	638	38.7%	5.5%	55.5%	0.3%
男性	289	43.3%	5.2%	51.2%	0.3%
女性	336	35.1%	5.4%	59.5%	0.0%
その他	4	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
無回答	9	22.2%	22.2%	44.4%	11.1%
10歳代・20歳代	136	86.0%	1.5%	12.5%	0.0%
30歳代	149	45.0%	8.1%	47.0%	0.0%
40歳代	124	26.6%	4.0%	68.5%	0.8%
50歳代	95	10.5%	8.4%	81.1%	0.0%
60歳以上	129	14.0%	6.2%	79.1%	0.8%
無回答	5	40.0%	0.0%	60.0%	0.0%

各表側Totalとのポイント差（n<30を除く）

■ 10pt 高 ■ 5pt 高 ■ 5pt 低 ■ 10pt 低

(10) 見ている情報媒体の状況

市広報は、約8割（「毎月読んでいる」＋「ときどき読んでいる」の合計）の方が読んでおり、年齢が高くなるほど読まれています。

市ホームページは、3割強の方が見ており、市 SNS は3割弱の方が見ています。

図 市広報（性別・年代別）

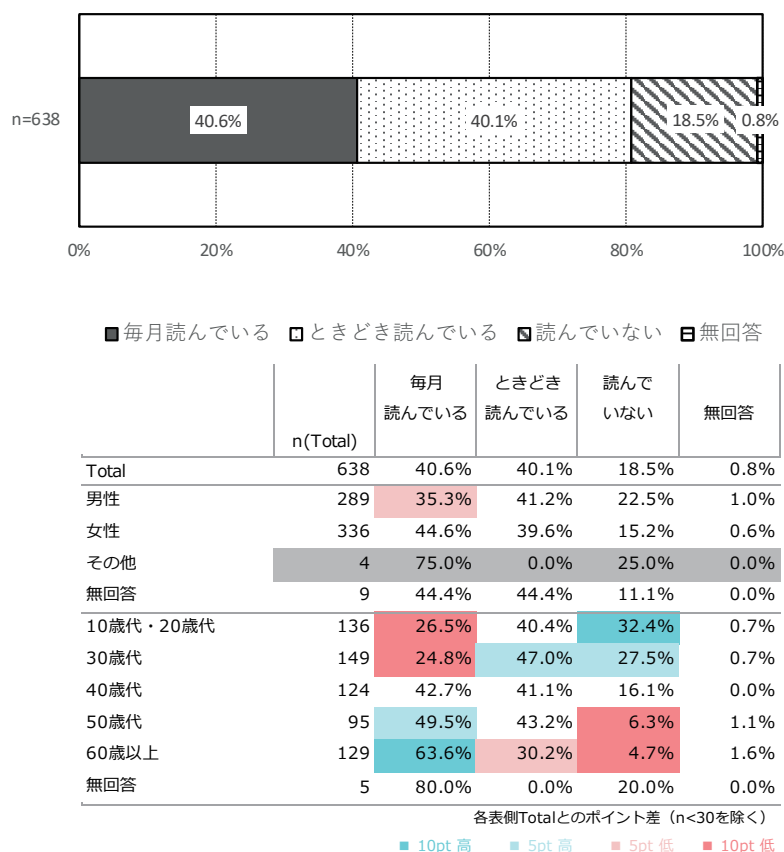


図 市ホームページ

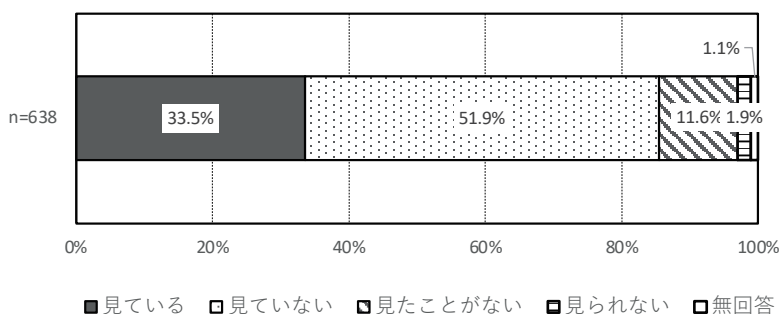
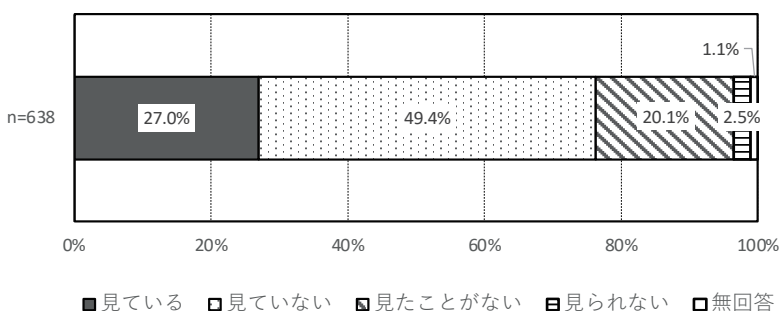


図 市 SNS



(11) 情報発信の状況

情報が伝わっていると感じる市民の割合（「思う」＋「やや思う」の合計）は、25.7%となっており、伝わっていないと感じる方（「あまり思わない」＋「思わない」の合計）は、33.4%となっており、伝わっていないと感じる方が多くなっています。

年齢別では、伝わっていると感じる方が、60歳代で31.8%と最も高く、30歳代で17.5%と最も低くなっています。

図 情報が伝わっているか

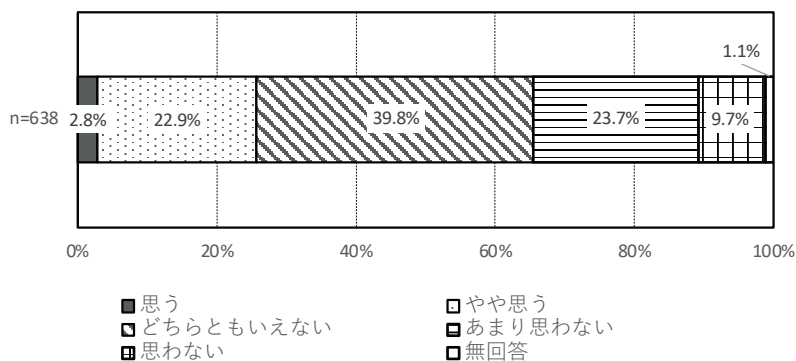


表 情報が伝わっているか（性別・年齢別）

	n(Total)	思う	やや思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない	無回答
Total	638	2.8%	22.9%	39.8%	23.7%	9.7%	1.1%
男性	289	3.5%	19.7%	37.0%	25.6%	12.8%	1.4%
女性	336	2.4%	25.9%	41.4%	22.3%	7.1%	0.9%
その他	4	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%
無回答	9	0.0%	11.1%	66.7%	11.1%	11.1%	0.0%
10歳代・20歳代	136	2.2%	24.3%	38.2%	27.9%	6.6%	0.7%
30歳代	149	3.4%	14.1%	40.3%	26.8%	14.8%	0.7%
40歳代	124	1.6%	21.8%	43.5%	19.4%	13.7%	0.0%
50歳代	95	4.2%	27.4%	35.8%	23.2%	7.4%	2.1%
60歳以上	129	3.1%	28.7%	40.3%	20.9%	4.7%	2.3%
無回答	5	0.0%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%

各表側Totalとのポイント差 (n<30を除く)

■ 10pt 高 ■ 5pt 高 ■ 5pt 低 ■ 10pt 低

(12) 地域活動への参加意欲

地域活動に何かしらの協力したい方（「特に参加も協力もしたくない」、「その他」、「無回答」を除いた数）は、8割以上となっています。

年齢別でみると、50歳代以上で「内容によっては参加したい」が45%を超えて高くなっており、30歳代で「特に参加も協力もしたくない」の割合が21.5%と高くなっています。

図 地域活動への参加

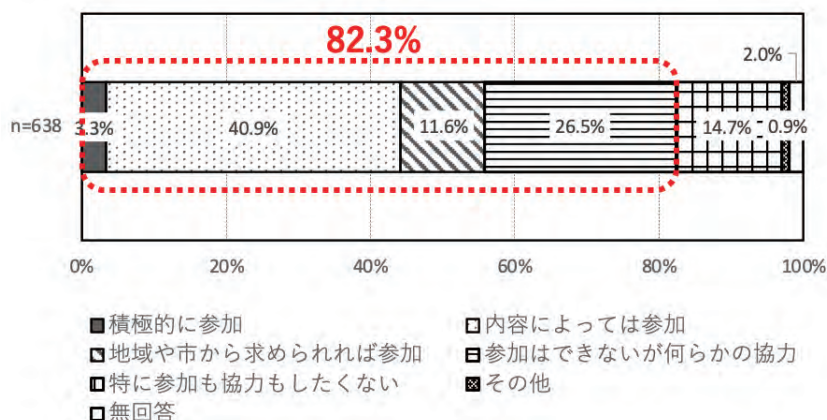


表 地域活動への参加（性別・年齢別）

	n(Total)	積極的に 参加したい	内容に よっては 参加したい	地域や市か ら求められ れば参加し たい	参加はでき ないが何ら かの協力は したい	特に参加も 協力もした いとは思わ ない	その他	無回答
Total	638	3.3%	40.9%	11.6%	26.5%	14.7%	0.9%	2.0%
男性	289	5.5%	37.7%	14.5%	24.2%	14.9%	0.3%	2.8%
女性	336	1.5%	43.8%	8.6%	28.6%	14.9%	1.2%	1.5%
その他	4	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
無回答	9	0.0%	33.3%	33.3%	22.2%	0.0%	11.1%	0.0%
10歳代・20歳代	136	2.2%	41.2%	14.7%	20.6%	19.1%	0.0%	2.2%
30歳代	149	3.4%	28.2%	13.4%	30.9%	21.5%	1.3%	1.3%
40歳代	124	4.0%	44.4%	8.9%	29.0%	12.1%	1.6%	0.0%
50歳代	95	2.1%	49.5%	10.5%	24.2%	11.6%	1.1%	1.1%
60歳以上	129	4.7%	46.5%	10.1%	26.4%	7.0%	0.0%	5.4%
無回答	5	0.0%	20.0%	0.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%

各表側Totalとのポイント差（n<30を除く）

■ 10pt 高 ■ 5pt 高 ■ 5pt 低 ■ 10pt 低

(13) 市民協働に重要なこと

市民協働のために重要なことは、「まちづくりに関する情報を共有する」、「計画策定時に市民が参加できる機会を増やす」、「市民が参加できるイベントを実施する」、「日頃から市民と市職員が接する機会を増やす」の順で高くなっています。

年齢別でみると、40歳代で「計画策定時に市民が参加できる機会を増やす」への参加の割合が30.6%と最も高く、60歳以上で17.8%と最も低くなっています。

図 市民協働で重要なこと

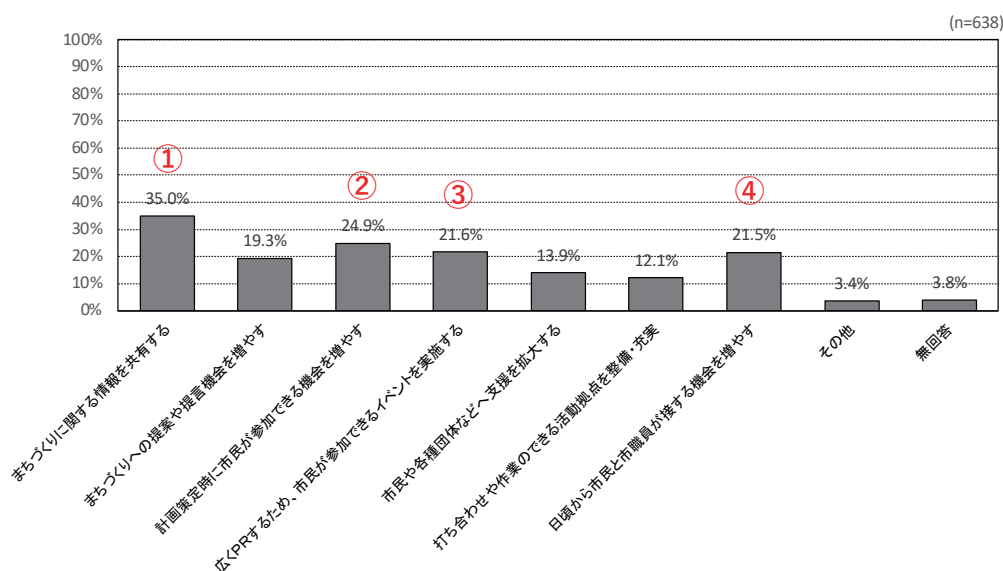


表 市民協働で重要なこと（性別・年齢別）

	n(Total)	まちづくりに 関する情報 (行政からの 情報・市民が 持つ情報)を 共有する	まちづくりへ の提案や提言 機会(アン ケートや意見 提案など)を 増やす	まちづくりに 関する計画を つくる際に、 市民が参加で きる機会を増 やす	市民協働による まちづくり の考え方を広 くPRするた め、市民が参 加できるイベ ント・事業を 実施する	市民や各種団 体などの主体 的なまちづく り活動の支援 を拡大する	市民が打ち合 わせや作業の できる活動拠 点を整備・充 実する	日頃から市民 と市職員が接 する機会を増 やし、お互い の理解を深め る	その他	無回答
Total	638	35.0%	19.3%	24.9%	21.6%	13.9%	12.1%	21.5%	3.4%	3.8%
男性	289	32.5%	17.3%	23.9%	18.0%	16.3%	13.5%	26.3%	4.2%	4.2%
女性	336	36.6%	20.8%	25.9%	24.7%	12.2%	10.4%	17.6%	2.7%	3.6%
その他	4	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
無回答	9	44.4%	11.1%	33.3%	22.2%	11.1%	22.2%	11.1%	11.1%	0.0%
10歳代・20歳代	136	38.2%	20.6%	24.3%	17.6%	13.2%	15.4%	20.6%	1.5%	5.1%
30歳代	149	38.3%	16.8%	26.8%	22.8%	12.1%	9.4%	23.5%	3.4%	2.7%
40歳代	124	27.4%	18.5%	30.6%	21.8%	16.1%	9.7%	25.8%	4.8%	2.4%
50歳代	95	32.6%	17.9%	24.2%	25.3%	12.6%	13.7%	16.8%	6.3%	2.1%
60歳以上	129	38.0%	23.3%	17.8%	21.7%	16.3%	11.6%	18.6%	1.6%	6.2%
無回答	5	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%

各表側Totalとのポイント差 (n<30を除く)

10pt 高 5pt 高 5pt 低 10pt 低

(14) 人口減少についての考え方

人口減少についての考え方は、「人口が今よりも増加するよう取り組むべき」が40.6%、「人口の減少は時代の流れであるが、減少のスピードが緩やかになるよう取り組むべき」が34.6%となっています。

人口減少について何か対策をするべきと考える方（「人口の減少は時代の流れであり、人口増加や維持に対する取り組みは重視しない」と「無回答」を除いた数）は、9割以上となっています。

性別でみると、男性が「人口が今よりも増加するよう取り組むべき」が47.4%と高くなっています。

性別でみると、30歳代で「人口の減少は時代の流れであるが、減少のスピードが緩やかになるよう取り組むべき」が41.6%と高くなっています。

図 人口減少の考え方

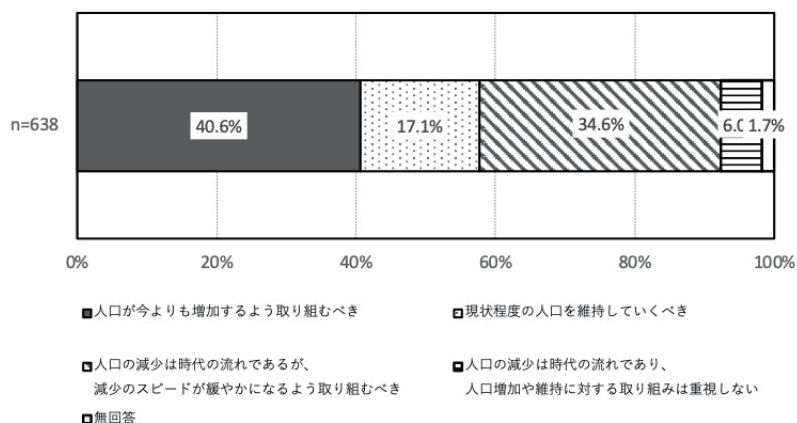


表 人口減少の考え方（性別・年齢別）

	n(Total)	人口が今よりも増加するよう取り組むべき	現状程度の人口を維持していくべき	人口の減少は時代の流れであるが、減少のスピードが緩やかになるよう取り組むべき	人口の減少は時代の流れであり、人口増加や維持に対する取り組みは重視しない	無回答
Total	638	40.6%	17.1%	34.6%	6.0%	1.7%
男性	289	47.4%	12.1%	32.2%	6.9%	1.4%
女性	336	35.1%	21.4%	36.3%	5.1%	2.1%
その他	4	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
無回答	9	33.3%	11.1%	44.4%	11.1%	0.0%
10歳代・	136	43.4%	20.6%	28.7%	6.6%	0.7%
30歳代	149	34.2%	14.1%	41.6%	7.4%	2.7%
40歳代	124	41.1%	17.7%	35.5%	5.6%	0.0%
50歳代	95	42.1%	18.9%	30.5%	7.4%	1.1%
60歳以上	129	42.6%	15.5%	34.9%	3.1%	3.9%
無回答	5	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%

各表側Totalとのポイント差（n<30を除く）

■ 10pt 高 ■ 5pt 高 ■ 5pt 低 ■ 10pt 低

(15) 人口減少対策で上野原市がこれから取り組むべきこと

人口減少を乗り越え上野原市が住みよいまちになるために、これから取り組むべきことは、「結婚・出産・子育てがしやすい環境づくりに向けた取り組み」が26.3%で最も高く、次いで「雇用を増やし、経済を活性化させる取り組み」が21.5%、「誰もが生活しやすいコンパクトなまちづくり」が12.9%となっています。

年齢別でみると、30歳代以下で「結婚・出産・子育てがしやすい環境づくりに向けた取り組み」が、50歳代で「移住・定住促進などに向けた取り組み」が、60歳以上で「介護予防や認知症予防など、高齢者が安心して暮らせる取り組み」が、他の年代に比べ高くなっています。

図 上野原市がこれから取り組むべきこと

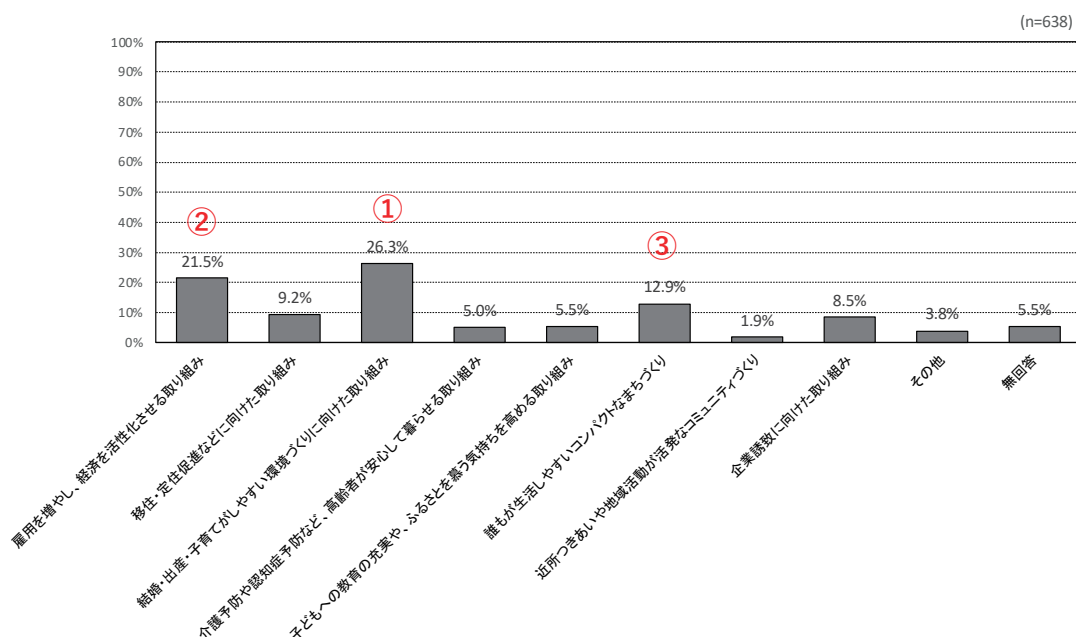


表 上野原市がこれから取り組むべきこと（性別・年齢別）

	n(Total)	雇用を増やし、経済を活性化させる取り組み	移住・定住促進などに向けた取り組み	結婚・出産・子育てがしやすい環境づくりに向けた取り組み	介護予防や認知症予防など、高齢者が安心して暮らせる取り組み	地域を担う子どもへの教育の充実や、ふるさとを慕う気持ちを高める取り組み	誰もが生活しやすいコンパクトなまちづくり	近所つきあいや地域活動が活発なコミュニティづくり	企業誘致に向けた取り組み	その他	無回答
Total	638	21.5%	9.2%	26.3%	5.0%	5.5%	12.9%	1.9%	8.5%	3.8%	5.5%
男性	289	23.2%	9.3%	27.0%	2.1%	5.9%	12.5%	1.0%	8.7%	4.5%	5.9%
女性	336	19.6%	9.5%	25.9%	7.4%	5.1%	13.1%	2.7%	8.6%	2.7%	5.4%
その他	4	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
無回答	9	33.3%	0.0%	22.2%	11.1%	0.0%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
10歳代・20歳代	136	25.7%	7.4%	32.4%	1.5%	2.9%	16.2%	3.7%	5.1%	2.2%	2.9%
30歳代	149	17.4%	10.1%	35.6%	3.4%	4.0%	11.4%	0.7%	4.7%	8.1%	4.7%
40歳代	124	21.8%	8.1%	21.8%	2.4%	7.3%	16.1%	2.4%	12.1%	4.0%	4.0%
50歳代	95	23.2%	14.7%	17.9%	7.4%	5.3%	10.5%	2.1%	11.6%	1.1%	6.3%
60歳以上	129	20.2%	7.8%	20.2%	10.9%	7.8%	9.3%	0.8%	10.9%	2.3%	10.1%
無回答	5	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

各表側Totalとのポイント差 (n<30を除く)
■ 10pt 高 ■ 5pt 高 ■ 5pt 低 ■ 10pt 低

(16) 上野原市の魅力を挙げられる数

答えられる上野原市の魅力は、「1～4個」が約76.6%と最も多くなっており、9割弱が4個未満となっています。

「10個以上」上野原市の魅力の数を答えられる方は、3%以下となっています。

年齢別でみると、10歳代・20歳代で「5～9個」が12.5%、50歳以上で「1～4個」が80%以上と他の年代と比較し高くなっています。

図 上野原市の魅力の数

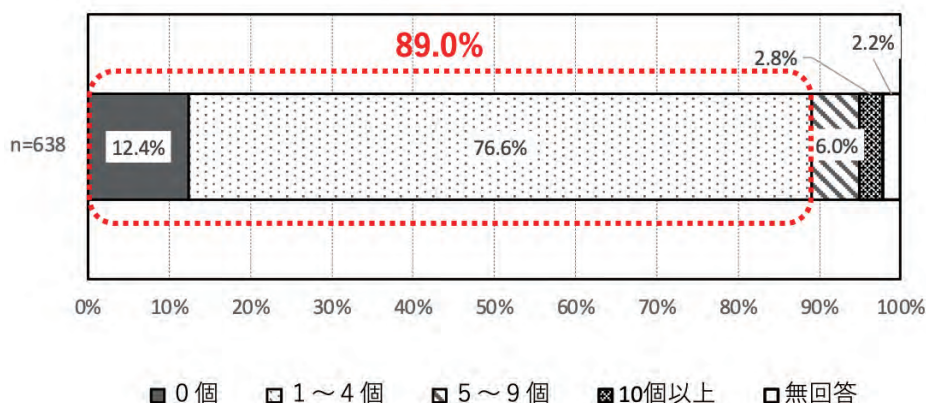


表 上野原市の魅力の数（性別・年齢別）

	n(Total)	0個	1～4個	5～9個	10個以上	無回答
Total	638	12.4%	76.6%	6.0%	2.8%	2.2%
男性	289	14.2%	74.4%	5.5%	3.1%	2.8%
女性	336	11.3%	78.9%	5.7%	2.4%	1.8%
その他	4	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%
無回答	9	0.0%	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%
10歳代・20歳代	136	14.0%	67.6%	12.5%	4.4%	1.5%
30歳代	149	14.8%	75.2%	2.7%	2.7%	4.7%
40歳代	124	12.9%	76.6%	5.6%	3.2%	1.6%
50歳代	95	6.3%	83.2%	8.4%	1.1%	1.1%
60歳以上	129	12.4%	82.9%	1.6%	1.6%	1.6%
無回答	5	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%

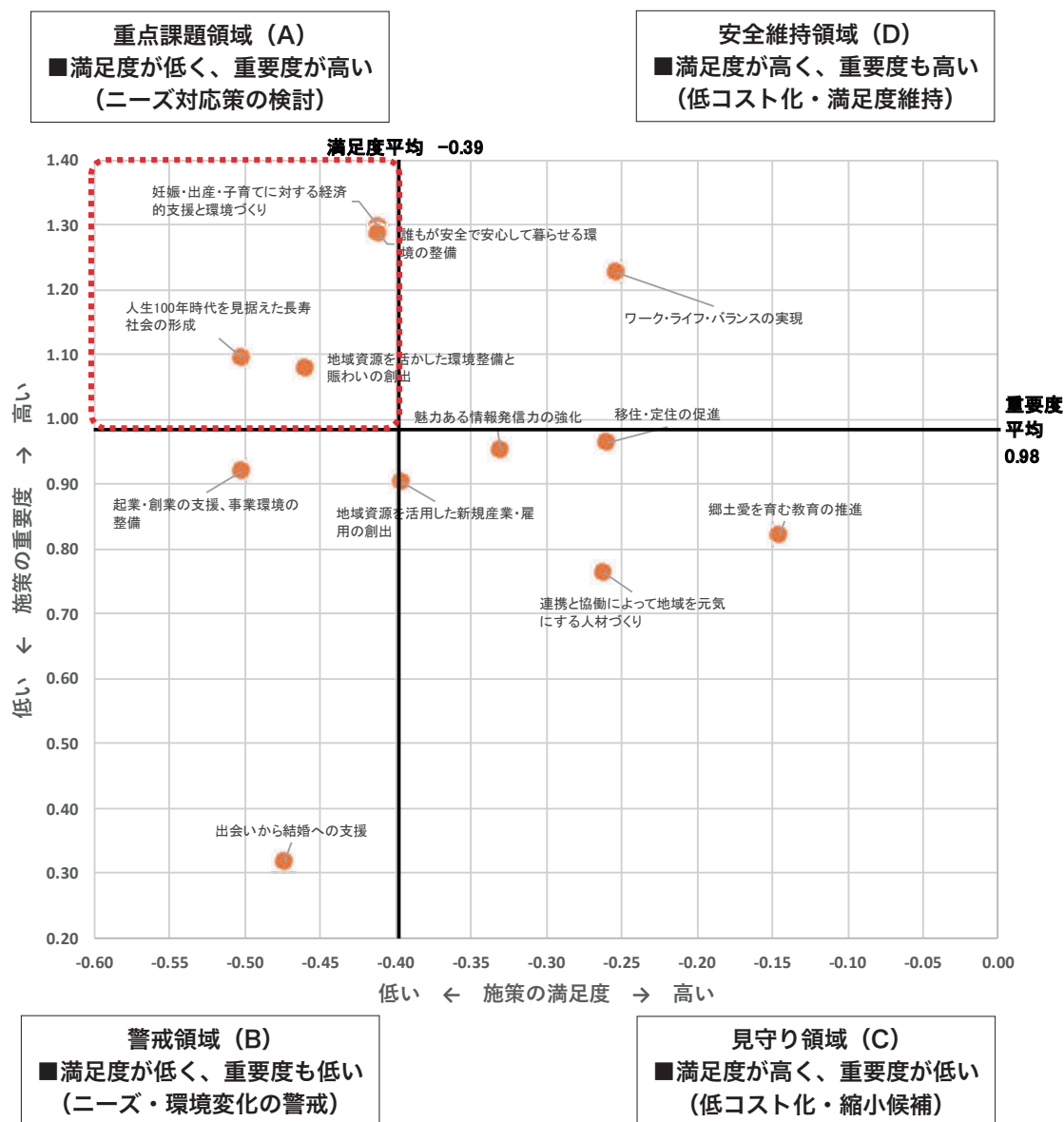
各表側Totalとのポイント差（n<30を除く）

■ 10pt 高 ■ 5pt 高 ■ 5pt 低 ■ 10pt 低

(17) 施策の重要度と満足度

重要課題領域は、子育て支援センターの充実など「妊娠・出産・子育てに対する経済的支援」と公共交通の充実など「誰もが安全で安心して暮らせる環境の整備」、地域包括支援の充実など「地域医療など人生100年時代を見据えた長寿社会の形成」、観光施設、廃校などの有効活用など「地域資源を活かした環境整備と賑わいの創出」の創出となっています。

図 上野原市がこれから取り組むべきこと



(18) これからの上野原市のまちづくりのキーワード

これからの上野原市のまちづくりのキーワードとしては、「移動の利便性」が53.4%で最も高く、次いで「出産・子育て」が40.6%、「災害対応・危機管理」が26.3%、「移住・定住の促進」が25.2%となっています。

年齢別でみると、年代が上がるにつれて「災害対応・危機管理」が高くなっています。また、30歳代で「出産・子育て」が、10歳代・20歳代、40歳代で「ワーク・ライフ・バランス」が高くなっています。

図 これからの上野原市のまちづくりのキーワード

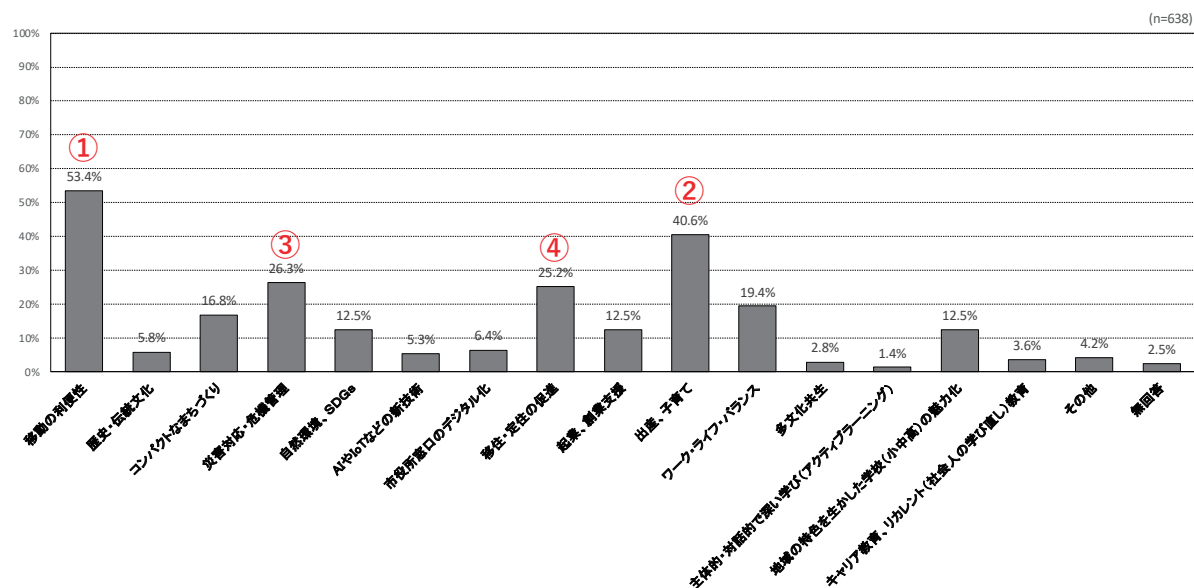


図 これからの上野原市のまちづくりのキーワード (性別・年齢別)

	n(Total)	移動の利便性	歴史・伝統文化	コンパクトなまちづくり	災害対応・危機管理	SDGs	AIやIoTなどの新技術	市役所窓口のデジタル化	移住・定住の促進	起業・創業支援	出産・子育て	ワーク・ライフ・バランス	多文化共生	主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)	地域の特色を生かした学校(小中高)の魅力強化	キャリア教育、リカレント教育(社会人の学び直し)教育	その他	無回答
Total	638	53.4%	5.8%	16.8%	26.3%	12.5%	5.3%	6.4%	25.2%	12.5%	40.6%	19.4%	2.8%	1.4%	12.5%	3.6%	4.2%	2.5%
男性	289	52.9%	4.8%	19.7%	20.8%	10.7%	6.6%	6.2%	25.6%	14.9%	40.8%	17.6%	4.2%	1.7%	11.4%	4.8%	4.8%	3.5%
女性	336	53.9%	6.5%	14.3%	31.0%	13.7%	3.9%	6.0%	25.9%	11.0%	40.8%	21.1%	1.5%	1.2%	13.1%	2.7%	3.0%	1.8%
その他	4	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
無回答	9	55.6%	11.1%	22.2%	33.3%	22.2%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	22.2%	0.0%
10歳代・20歳代	136	50.7%	8.8%	18.4%	16.9%	12.5%	3.7%	6.6%	25.7%	7.4%	42.6%	26.5%	5.9%	2.9%	12.5%	2.2%	2.9%	2.2%
30歳代	149	53.7%	2.7%	12.8%	20.8%	9.4%	6.0%	8.7%	23.5%	14.8%	53.0%	16.1%	2.7%	2.0%	14.1%	4.0%	5.4%	1.3%
40歳代	124	54.0%	7.3%	20.2%	21.0%	12.1%	6.5%	6.5%	21.0%	15.3%	36.3%	27.4%	1.6%	0.0%	17.7%	4.0%	5.6%	2.4%
50歳代	95	58.9%	5.3%	12.6%	31.6%	11.6%	3.2%	8.4%	33.7%	13.7%	30.5%	15.8%	3.2%	1.1%	12.6%	2.1%	4.2%	3.2%
60歳以上	129	51.9%	5.4%	18.6%	45.0%	16.3%	7.0%	2.3%	24.8%	12.4%	36.4%	10.1%	0.8%	0.8%	5.4%	4.7%	2.3%	3.9%
無回答	5	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%

各表側Totalとのポイント差 (n<30を除く)
 ■ 10pt 高 ■ 5pt 高 ■ 5pt 低 ■ 10pt 低

3 うえのはら未来会議（市民ワークショップ）

（1）うえのはら未来会議とは

うえのはら未来会議とは、上野原に暮らしている人たちと市と一緒に「みんなが自慢できる上野原やこんな上野原だったらいいな」を考え、実践していくための話し合いの場です。10月まで開催した未来会議では、移住・定住だけではなく、創業や雇用創出、結婚、子育て、福祉、教育、市民協働など、上野原に住んでいてよかったと、こころ豊かに暮らすための方法について全6回で考えました。

図 開催風景



図 開催スケジュール

- ・第1回 2024年4月27日（土） 上野原を「まだ、知らないだけ。」
- ・第2回 2024年6月8日（土） わたしの未来とまちの未来を想像しよう
- ・分科会 移住、子育て、教育などテーマ毎に具体的な取組を検討
 - 【分科会①】2024年7月13日（土）ペルソナ・ストーリーづくり
 - 【分科会②】2024年8月10日（土）企画・事業計画づくり
 - 【分科会③】2024年10月5日（土）情報発信・プレゼンテーション
- ・第3回 2024年10月19日 大発表&交流会

(2) 開催結果

うえのはら未来会議で検討された主な意見は、下記のとおりです。

図 上野原の将来像と強みと弱みについて

10年後の上野原を、

- 子ども達が楽しく、わいわいと遊べる場所をつくって、上野原の方々が楽しく暮らせるまち
- 日本一の人口増加率を誇り、街の中で WAKU WAKU の毎日をご過ごす人達であふれる
- 観光客であふれるまち
- (都会の人が次に住みたい) 住みやすい、ちょうど良い田舎のまち
- 山や森林の環境が良くなる動きをつくれるまち
- 地域で衣・食・住に必要なものがつくられ・使われて循環していくまち
- 自然と共存する / 市民が上野原にプライドを育てる / 県内で一番子どもにやさしいまち
- 農業で食べていけるまち
- 住んでいてよかったなあと思える / 若い人たちがずっと住んでいたい / 楽しいこといっぱい全国の人に注目されるまち
- 自信を持って紹介できるまち
- 子ども達のにぎやかな声と高齢者の明るい話し声が上手くマッチングした子育て環境の充実したまち
- 心おだやかに、みんなのつながりがあるまち
- 自然の中で地域の人が笑顔で協力しあえるまち
- 社会教育とモノづくりの盛んな若者が挑戦できるまち / 若者の起業が盛んなまち



にします！

必要な取組み

- 子どもが安全に遊べる場所をつくる
- 地域に住む人同士が安心できる人間関係
- ライドシェアの活用
- 人材活用
- 市民活動の活発化、見える化
- インバウンド客を集める施設（英語、田舎体験）
- 空き家のリノベーション
- 上野原といえば・・・みたいなものを見つける
- 森林整備→林業者への支援
- 自ら町のこれからを市と協力してつくりあげる
- 上野原のまちに持続的にお金が入ってくるしくみをつくる
- 農業自給率、耕作放棄地
- 周知方法を改めてみる
- 地域コミュニティや人と人のつながりをつくる
- お祭りや伝統行事などの PR 活動
- 廃校跡地の利用（廃校アート、映画祭）

強み（資源）と弱み（課題）

- 上野原で働きたい→職がない
 - ↳ 企業の誘致、IT（リモート、在宅）
- 上野原に住みたい→住むところがない
 - ↳ アパートや公園の整備など
- 子育てしたい→預けるところがない
 - ↳ 遅くまで預けられる所
 - ↳ 救急の病院
- ミューの森のさらなる PR+道の駅の整備
- デマンドタクシーの導入
- 自然の美しさ、心温かい人、個性的で面白い人が住んでいる
- 市にあるものを端から端まで見る。秋山金山、無生野念仏もあった
- 若者に向けての宣伝方法
- 森林の環境整備
- 自信をもって住みやすいといえることがまだピンとこないから、3つ以上言えるようにしたい。時間が足りなさそうです。

図 上野原みらい会議からの提案

NO	プロジェクト名	概要
1	おすそ分けシステムプロジェクト	・余った野菜やキズのついた野菜などを活用し、調理しておすそ分けするシステム（地元農家や料理上手な方が調理）
2	市内交通改善プロジェクト	・市内にあるあらゆるバスやタクシーなどを活用して、便利な公共交通へ改善を図るプロジェクト
3	駅及び駅周辺を活用した交流イベントプロジェクト	・駅舎や駅前を活用してマルシェなど市内、市外の方が参加する交流イベントを開催するプロジェクト
4	上野原案内人プロジェクト	・引っ込み思案な大学生や地域に関わりたい人などに、積極的に上野原の面白い人や場所を紹介するプロジェクト
5	みんなのカフェプロジェクト	・子育て中のママや子育ての落ち着いたママが気軽に集まれるカフェをつくるプロジェクト（ママの趣味や特技を持ち寄ってお店づくりを行う）
6	せいだ芋のブランド化、子どもへの食育プロジェクト	・子どものうちから上野原産の産品（せいだ芋などを中心）を食べてたり、学んだりすることで食育の推進を図り、せいだ芋のブランド化を図るプロジェクト
7	空きバスの活用プロジェクト	・保育園や学校、市役所などのバスで空いている時間帯に、市内を走ってもらい交通難民の解消を図るプロジェクト
8	農業体験、就農支援プロジェクト	・移住希望者などに農業体験などで上野原に訪れてもらいながら、徐々に空き家や仕事などをマッチングしていくプロジェクト ・農地バンクによるマッチングの推進
9	自然・地形を活かした文化・歴史の継承プロジェクト	・ジオパークの検討などを契機に、安全な森林環境の整備、パトロールや観光ボランティアの育成、木の活用などを行い、若い世代へ継承するプロジェクト
10	自然満喫プロジェクト	・子どもが自然と触れ合える場所をつくるプロジェクト。廃校や荒廃地などを活用し、ツリークライミング、川遊び、釣り、ハンモック、キャンプなどができる場所づくり
11	上野原の魅力発信プロジェクト	・上野原の魅力的な人、もの、ことをSNSで発信するプロジェクト ・SNSでのフォトコンテストの開催
12	シニア世代いきいきプロジェクト	・経験、知識が豊富なシニア世代の居場所づくりを行いながら、創業支援や若い世代へのノウハウ継承を行うプロジェクト
13	「区」の活性化プロジェクト	・人口減少や高齢化などにより区の育成会なども活動できなくなったため、育成会に代わる若い世代へむけたイベントなどを行い、区を活性化するプロジェクト
14	子育て満喫⇒社会復帰プロジェクト	・貴重かつ大切な子育て期間を満喫してもらい、子育てを楽しんでもらってからしっかりと社会復帰することを目指すプロジェクト
15	高校生のまちへの愛着醸成プロジェクト	・上野原の高校生に「上野原に残りたい」「上野原に戻ってきたい」「上野原を応援したい」と思ってもらえるように、まちとの関わりをつくるワークショップを開催するプロジェクト
16	空き家バンクの活用プロジェクト	・空き家バンクの移住希望者は200人以上いるため、空き家バンクへの登録を促すプロジェクト
17	市役所職員のモチベーションアッププロジェクト	・職員の個性を活かし挑戦できて、しっかりと頑張りが評価される仕組みをつくるプロジェクト
18	撮影受入振興都市プロジェクト	・少ない費用で効果を出すため、積極的にドラマや映画などの撮影を受入れ、ロケツーリズムの推進を図るプロジェクト
19	ハレノヒプロジェクト	・趣味や部活、恋愛などの舞台として上野原があるようにすることで、上野原で思い出や記念日をつくってもらおうプロジェクト
20	ワールドカフェプロジェクト	・日頃の困ったことややりたいことなどを日常的に持ち寄って、気軽に話し合う場をつくるプロジェクト
21	みんなで応援プロジェクト	・イベントなどはもちろんのこと、頑張っている人、挑戦している人をまわりの人が積極的に応援するプロジェクト（チアでの応援も）

4 市民団体・事業者等ヒアリング結果

(1) 調査概要

市内観光事業者や交通事業者、子育てサークル、青年会議所等市内の事業者・活動団体の18団体について、活動状況や課題、今後の展望についてヒアリング調査を行いました。

(2) 調査結果

市民団体・事業者等ヒアリングの調査結果概要は下記のとおりです。

表 ヒアリング調査結果

分野	結果概要
観光	・市内に大きな観光資源がないため、小さな観光資源となりうるものを磨き上げていきたい。その活動を象徴するジオパークの認定、推進。 ・高尾・相模湖エリアの観光客を引っ張ってこられるような動きをしたい。 ・観光については、「まだ、知らないだけ。」ではなく「知らせないだけ」の状況だと思っているため、どのように情報発信を行っていくかが課題で、ジオパークを中心に盛り上げていきたい。 ・課題は、市全体としての理解がないところと、市役所との連携。ジオパーク関係の有識者や連携する人材を確保ということも課題。
交通	・上野原の乗車客数は年間4000人くらい（乗降で考えるとその倍）。県内で言うと甲府の次に大月・上野原が乗客数は多い。 ・来年春から、中央線特急（特快）の大月―東京間でグリーン車を導入する予定。 ・「あきやまがかり」と一緒に秋山エリアを回る企画をやったり（駅ハイク）、直近は肉フェスへの出店などイベント関連は直接市（観光課）とJR東日本とで連携しているため、そういった鉄道部門以外での連携も増やしていきたい。 ・大月駅近辺はほぼインバウンドの観光客だが、上野原をはじめ県内へと周遊させるのが課題。 ・バスについては、路線の維持・廃止などについて話し合っている状況。少ないから廃線というのではなく、もう少し前向きな議論ができればと思う。 ・バス利用者はずっと減少しており、便を増加させる要素は今のところ検討が付かない。 ・バスの運転手の確保が課題。拘束時間の制限が厳しくなったが、なり手がいない。 ・観光路線をもっと検討していきたい。 ・タクシーの台数は6台あるが、運転士がおらず3～4台が稼働している状況。上野原全体では14台程度が稼働。現状は、1台に対して1.2人の状況だが、理想は1.8人くらいまでであるとよい。 ・デマンドタクシーは1日8便（10名）くらいの利用がある。
子育て	・上野原には複数の子育て団体があるが、子どもがそんなに多くないのでうまく連携できていない状況。 ・子育て中の方は、子どもの遊び場の問題があり、これから出産する方には産後ケアの問題がある。産婦人科がないけど上野原ってみんな出産しているよねみたいな風潮ができたらいと思っている。 ・産婦人科や医療系が弱いので、助産師や保育士の免許を持っている方がメンバーにいて情報共有や子育て教室みたいなことをやっている。 ・産後ケア施設みたいなものがないため、充実させたい。また相談先の機関がないため、八王子か石和に行く状況。 ・子どもを連れていける飲食店やカフェみたいなものがほぼないのであったらいいと思っている。 ・産後ケアや助産師さんなどの相談先の情報を、市としてまとめて発信してもらいたい。 ・病院（小児など）はすぐにできないと思うが、都内の病院に行く高速代や子育てにかかる費用の負担をするなどの支援があれば、もう少し子育て世代も関心が高まると思う。 ・市でやっているファミサポ（預け先の個人宅に預ける感じ）がもう少しうまく機能してもらいたい。
工業団地	・電車でのアクセスはよく、環境は良好。 ・ニッチな業界ではあるが、何十年も国内の会社だけを相手にやってきた。国内は下火になってくことも懸念をして海外への進出を始めている。 ・課題は人材確保。上野原での現地採用もしているが、足りていない。外国人採用でベトナムの方を入れてみたこともあるが、言葉の障壁が高いことや技術流出も懸念している。 ・工業団地には、優良企業もあるので、市として情報発信は力を入れてやってほしい。 ・年数が経って産廃業者などが増えているので、環境の維持も課題。土壌汚染などがあれば、工業団地全体の問題になる。 ・中途採用は即戦力でいいのだが、変な癖がついている人もいるので、全く関係ない業種からでも素直に自社のノウハウを継承できるメンバーもほしいと思っている。 ・新卒で外に出た子を戻すような施策（奨学金免除など）や社員向けのセミナーなどの教育の場をもっと増やしてほしい。

表 ヒアリング調査結果

分野	結果概要
創業支援	・コワーキングや交流イベントなどの場の運営をきっかけにいろんな人を繋げる活動を発展させていきたい。市内の人と人もそうだが、都心の企業と上野原をつなげるようなことも力をいれていきたい。 ・コワーキング・シェアオフィスだけではなく、コモアしおつでのコーディネートなども行っている。 ・上野原での滞在時間を伸ばして地域へお金を落としてもらうためにも、宿泊施設については今後考えていきたい。
金融機関	・上野原では、中銀がある程度大きな規模の会社（工業地域の企業など）を対応しており、山梨信金・都留信金が地元の小さな商店などを対応と役割が別れている珍しい地域。 ・労働人口の確保が難しいと思うが、もっと工業団地に企業を誘致できると思う。 ・上野原は特殊なエリアに感じており、地域の特性柄、変なしがらみがない（都会でもないが、東京の方を向いている）ので、仕事はしやすい。 ・創業支援は他の支店と比較すると少ない印象がある。 ・採用は苦労しており、都留、大月、都内からが多い。（上野原はほぼない）
商業	・商工会は経営支援3人、支援員3人、全員で7名体制。働き方改革によって、残業を抑えないといけなが、事業も推進していかないといけなく組織運営としては難しい。 ・職員自身が自分自身の業務に手いっぱい、中期計画の策定もできておらず、積極的に観光面での連携や事業継承なども行えていない。 ・JCとしては、青少年教育に力をいれており、小学生、中学生向けの職業体験を行っている。 ・JCは山梨県内でも210名くらいしかおらず、上野原では9名で活動している。会員の獲得が課題。
農業	・上野原の農業の特徴として、農地が点々としているのであまり大規模にはできない（少量多品目） ・今後はオンライン販売やふるさと納税との連携なども行っていきたい。 ・耕作放棄地をなんとかするためにも、農業に関心を持ってくれる人を増やしていきたい。 ・西原で雑穀の活動をしている兄弟など、特徴的なことをしている方もいるが、跡継ぎがない状況。 ・農業に関する制度や農業、補助金の勉強会などを行ってほしい。農業を適切に使っていくというのが上野原でも広まらないと農家は増えないのではないかとも思っている。
地域づくり	・長寿館は、ここ3年はほぼボランティアで運営している状況。このキャパで既存のものを継続して頑張っても年商で3000万円くらいがMAXの状況。 ・活動メンバーは14名いたが、いまは実質2名体制。地域活動の担い手をどうするのかも大きな課題。 ・建物も築30年が経過しているため、どうしていくのか議論が必要。 ・秋山では、週末移住者、完全移住者、Uターン者の3つを増やしていく方針で活動している。具体的には、農業体験、移住者懇談会、秋山体験会、秋山井戸端会議など。 ・移住のニーズはあるが、貸せる物件がない（空き家はあるが…） ・SNSや広報関係が弱く告知能力が弱いので、地域おこし協力隊も検討していきたい。 ・活動のコアメンバーも本業を持っているので実働時間が限られる。無理をしない活動をしていきたい。 ・地域内の調整に時間がかかる（デジタルの対応がしづらい、根回しの文化、新しいことをやる上での説明など）

5 地域ビジョン

（１）本戦略における地域ビジョンの位置づけ

国における「デジタル田園都市国家構想総合戦略」や山梨県における「山梨県総合計画」の考え方等を勘案し、地方創生における ICT（情報通信技術）やデジタル技術等の活用を中心に、少子化・人口減少対策など、戦略的に進めるべき事業や取組を網羅的に整理し、本市の特性を活かした今後の地方創生の取組の指針として総合戦略を策定します。

総合戦略に掲げる地域ビジョン（目指すべき地域の将来像）においては、上野原市の最上位計画として、重要課題である少子化・人口減少対策の側面から、上野原市ブランドメッセージ（ビジョン）「まだ知らないだけ。上野原」を具体化・実現を図るものとして設定します。

特に、上野原市のブランドメッセージにおいては、市内、市外など情報発信におけるメッセージ性（要素）が強いいため、地域ビジョンにおいては、発信されるべき「まち」「ひと」「しごと」を創出し、上野原の強みやポジション（立ち位置、差別化）の確立を目指します。

上野原市ビジョン（ブランドメッセージ）



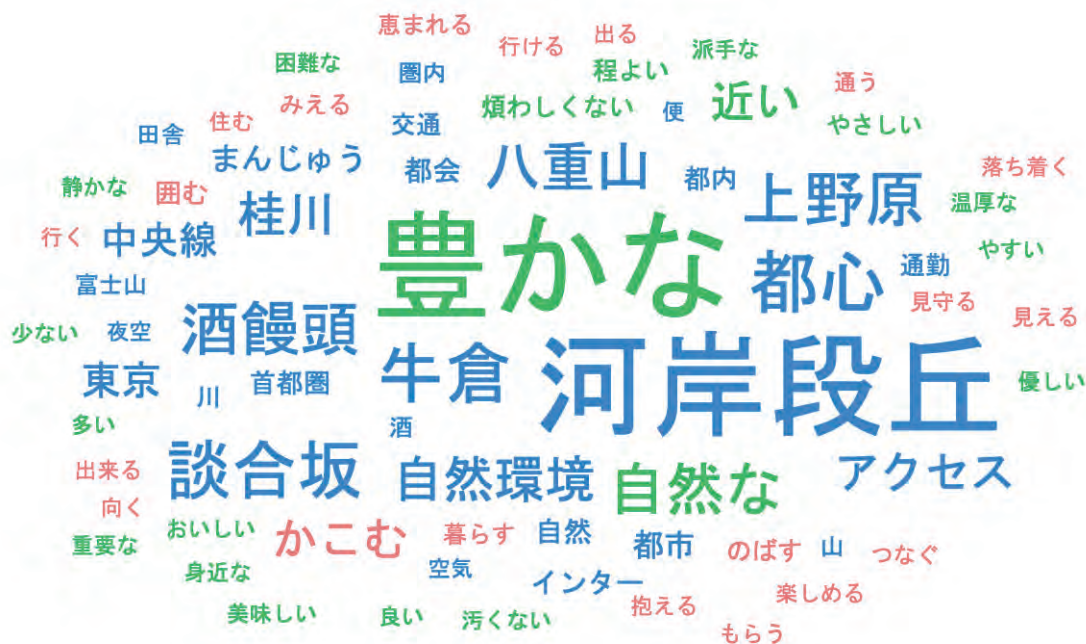
（２）地域ビジョンの方向性

①「都心までの距離と豊かな自然のギャップが自慢」

市民アンケートにおける自由記入を分析しキーワードを抽出すると、都心までの距離と豊かな自然環境（河岸段丘、八重山、桂川など）を自慢として上げています。

都心まで近いにも関わらず、日本有数の河岸段丘を背景とした豊かな自然があるというギャップが市民が考える自慢と考えられます。

図 上野原市の自慢を1つあげるとすると何か (回答数と文字の大きさが比例)



② 「まちの自慢を実感している人が少ないことが課題」

上野原市の魅力の浸透度をみると、あげられる魅力の数が4個以下が89%となっており、上野原のおすすめ度も8点以上の方が7.9%と低くなっています。

上野原のまちの魅力として、「都心に近い」という物理的な距離をあげる方が多く、東京への依存が高いため、上野原独自の自慢について、自信をもって回答したり、他の人へおすすめしたりすることができないことが、居住意向の低さにもつながっていると考えられます。

図 あげられる魅力の数

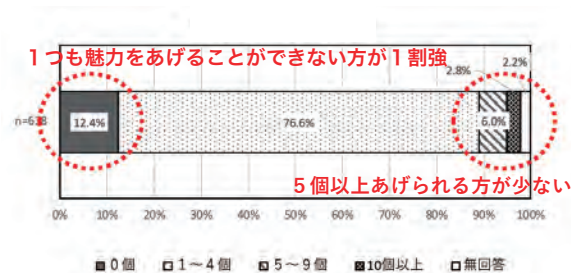


図 上野原市のおすすめ度



図 今後の居住意向

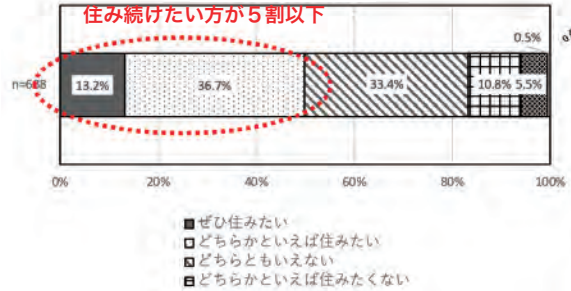


図 あげられる魅力の数 × 今後の居住意向

	魅力の数	ぜひ住みたい い	どちらかとい うは住み たい	どちらとも いえない	どちらかとい うは住み たくない	ぜひ市外へ 移りたい	無回答
	n(Total)						
Total	638	13.2%	36.7%	33.4%	10.8%	5.5%	0.5%
0個	79	3.8%	13.9%	35.4%	29.1%	17.7%	0.0%
1～4個	489	11.5%	40.7%	34.6%	8.4%	4.3%	0.6%
5～9個	38	36.8%	28.9%	26.3%	7.9%	0.0%	0.0%
10個以上	18	33.3%	44.4%	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%
無回答	14	35.7%	35.7%	21.4%	7.1%	0.0%	0.0%

魅力を5個以上あげられると「ぜひ住みたい」が高い

③ 「今ある資源を活かして（循環させて）、「住みたい」「住みやすい」を増やす」

市民ワークショップにおいて、参加者の方々が掲げた上野原の将来像は下記のようになっています。

山林などの資源や都市部に近いちょうどよい田舎という特性を活かし、上野原ならではの強みをつくり、若者や子どもが住んでいてよかった、これから住みたいという人を増やし、未来に向けて挑戦していくことが求められています。

表 市民ワークショップにおける上野原の将来像と投票結果

NO	上野原の10年後の姿	投票結果
1	(都会の人が次に住みたい) 住みやすい、ちょうど良い田舎のまち	14
2	山林が80%以上という特徴を生かしたまちづくり、都市部に近い強みを生かしたまち	13
3	さらに住みやすいスマートなまち IT活用、廃校活用、交通を含めたネットワークが整備されたまち	7
4	子ども達が楽しく、わいわいと遊べる場所をつくって、上野原の方々が楽しく暮らせるまち	5
5	豊かな自然とふれあい、自由に子どもたちが遊べるまち	5
6	若者が住みたいまち→活気あるまちへ	5
7	地域で衣・食・住に必要なものがつくられ・使われて循環していくまち	4
8	心おだやかに、みんなのつながりがあるまち	4
9	人に勤められるようなまち	4
10	自然をそのままに子ども達の活気あふれるまち	3
11	自信を持って紹介できるまち(魅力を3つ以上言える)	3
12	日本全国の人が名前を知っているまち	3
13	遠くからでも足を運びたい魅力的なまち	3
14	子ども達のにぎやかな声と高齢者の明るい話し声が上手くマッチングした子育て環境の充実したまち そこに適度に観光客がくるまち	3
15	日本一の人口増加率を誇る 街の中でWAKU WAKUの毎日を過ごせる人達であふれるまち	2
16	楽しくて健康的なまち、魅力的で住みたいまち	2
17	農業で食べていけるまち	2
18	自然と共存するまち 市民が上野原にプライドを保てるまち 県内で一番子どもにやさしいまち	2
19	満足して暮らせる、あたたかいまち	2
20	おもしろ、たのしいシティにしたい	2
21	食物自給率UPなまち	2
22	自然の中で地域の人が笑顔で協力しあえるまち	2
23	若者の起業が盛んなまち	2
24	様々な体験ができるまち	2
25	グローバルな上野原	2
26	山や森林の環境が良くなる動きをつくれるまち	1
27	ここが私の居場所と確信できるようなまち	1
28	楽しいこといっぱい全国の人に注目されるまち	1
29	各々の人が意識・自覚を持てるまち	1
30	社会教育とモノづくりの盛んな若者が挑戦できるまち	1
31	地域で支え合えるまち	1
32	現在ある施設、人材、制度を活かし、活気あるまち	1
33	観光客であふれるまち	
34	将来のビジョンが想像しやすいまち 笑顔いっぱい	
35	今残っている部分をそのまま生き生きさせているまち	
36	住んでいてよかったなあと思えるまち	
37	若い人たちがずっと住んでいたいまち	
38	大きな住宅地のまち	
39	坂を苦としない	

(3) 上野原市みらい戦略における地域ビジョン

上野原市みらい戦略における地域ビジョンは、上野原市ブランドメッセージである「まだ知らないだけ。上野原」を具現化するべく以下の通り設定します。

上野原市は、河岸段丘の地形が特徴的なまちです。河川は一般的に、上流部、中流部、下流部と呼ばれ、上流部は、山から水が湧き出し源流とも呼ばれる中山間部や山村が、一方で、下流部は、河川が砂などを運び、たい積した平野部で都市が広がっています。上野原市は、中流部の特徴である河岸段丘のまちで、都市と山村の間、東京と地方の間ということがいえます。

首都・東京と地方のそれぞれの入口に位置している立地ポテンシャルを最大限に活かすため、上野原から「ひと」、「もの」、「こと」を東京や地方のそれぞれへ発信し、再び上野原に還元させる市町村の枠を超えた連携が重要です。

まだ知られていない上野原のヒト・モノ・コトを「未知の資源＝ポテンシャル」と捉え、市内外の多様な主体がつながり、上野原の課題解決を行うことで、再び市内外に挑戦と応援の循環をつくり、未知なる未来も挑戦という価値へ変えていくことを目指します。

上野原市みらい戦略「地域ビジョン」

上野原の資源の循環で、未知を価値に変えるまち

上野原の
資源の
循環

都市部にも山村部にも近い特性を活かし、多様な主体がつながり、上野原の課題解決を行うことで、市内外に挑戦と応援の循環をつくる

未知を

まだ知られていない上野原の資源（ヒト・モノ・コト）を「未知の資源＝ポテンシャル」と捉え未来へ挑む

価値に

未知なる未来も挑戦（チャレンジ）という価値へ変える

図 地域ビジョンのイメージ



(4) 人口動態からの課題

「出生率の改善」を図るため安心して出会いから出産・子育てまで安心して行える環境づくりと全世代・全市民が活躍する「生涯活躍のまち」への転換が必要です。

第2期総合戦略の目標値令和2(2020)年人口が22,747人であり、令和2(2020)年国勢調査では22,669人となっています。(▲78人)

年齢区分では、15歳未満が▲44人、15～64歳が▲8人、65歳以上が▲26人。平成30(2018)年以降、平成29(2017)年以前と比較して転出超過数は大きく抑制しています。

自然増減は、平成30年(2018)年以降200人台の自然減が続いており、死亡数の増加とともに、出生数も同様に減少しています。

第2期総合戦略では、令和42(2060)年の合計特殊出生率を1.70が目標となっています。令和2(2020)年では、1.16、令和7(2025)年で1.20が目標となっていました。最新の5ヶ年平均では1.07となっており、特にコロナ禍の令和2(2020)年以降、大きく低下しています。(人口動態統計特殊報告、厚生労働省)

(5) 施策展開に向けた課題(市民意向調査等より)

① 自然環境・近便さのPRの促進

- ・ 豊かな自然環境と都心へのアクセスの良さを上手く活用し・PRすることが必要です。
- ・ 立地を活かした働き方の提案やキヌアやせいだいもなどを活かした特産品開発、市内シェアオフィス・コワーキングスペースなど既存施設を活用した仕事づくりが必要です。

② 働きながら子育てしやすい環境づくり

- ・ 子どもの遊び場や小児の救急医療体制の整備など安心して子育てできる環境づくりが必要です。

③ 地域内の移動利便性の確保

- ・ 事前に予約して決められた時間や決まった場所などではなく、乗りたいときに乗れるなど、利用者視点でのデマンド交通の利便性の向上、タクシー、バスなど公共交通の充実が必要です。

④ 駅周辺、まちなかの賑わいの創出

- ・ 日常の買回りや若者向けの居場所に対する不満が多くなっており、暮らしやすさの向上が必要です。

⑤ 廃校の利活用や教育環境の充実

- ・ 子どもの減少が顕著であるため、上野原で子育てしたくなるような地域の特色を活かした教育環境の整備が必要です。
- ・ 耐震など活用方針が定められない廃校が多くあるため、市内外の民間活力を活かした活用方策の検討を引き続き進めていくことが必要です。

(6) 施策展開に向けた視点

人口動態からの課題

▼自然減は拡大、社会減は抑制傾向

社会増減については、平成 30（2018）年以降、平成 29（2017）年以前と比較して転出超過数は大きく抑制している。

自然増減は、平成 30（2018）年以降 200 人台の自然減が続いており、死亡数の増加とともに、出生数も同様に減少。

▼大きく低下する合計特殊出生率

第 2 期総合戦略では、令和 42（2060）年の合計特殊出生率を 1.70 と設定。令和 2（2020）年では、1.16、令和 7（2025）年で 1.20 が目標。

最新の 5 ヶ年平均では 1.07 となっており、特にコロナ禍の令和 2（2020）年以降、大きく低下している。

上野原市の強み（ポテンシャル）

▼地勢

- ・桂川や河岸段丘を背景とした豊かな自然環境
- ・市街地エリアの巖・島田・上野原地区と里山エリアの大目・甲東・大鶴・桐原・西原・秋山地区と多様な特色ある地区

▼住みやすさ

- ・都心から電車や車で 1 時間程度とアクセスがよく通勤・通学に便利
- ・自然災害が少なく、良好な住宅環境

▼地域資源

- ・自然資源（桂川、鶴川、秋山川、河岸段丘等）
- ・歴史資源（旧甲州街道の宿場町、牛倉神社例大祭等）
- ・観光資源（秋山温泉、キャンプ場、マス釣り場、ゴルフ場等）

上野原市の弱み（リスク）

▼地域経済（商工業、農林業）

- ・中心市街地の空洞化、空き店舗の増加
- ・工業団地への立地促進
- ・担い手不足による耕作放棄地の増加
- ・買い物弱者・移動困難者への対応
- ・農産品のブランド化の推進

▼移動

- ・市内の公共交通の改善

▼社会インフラの活用

- ・廃校の利活用の促進
- ・公共施設の再配置

▼医療・子育て

- ・出産時や小児の救急医療体制の改善
- ・保育士の不足

▼財政

- ・税収減と医療・福祉に要する費用の増加

地域の強み（ポテンシャル）を生かし、弱み（リスク）を克服することで、
地域の多様な主体とともに「選ばれる地域」へ

これからも選ばれる上野原であるために

- ①上野原を応援し、関わる人を増やす（交流・関係人口の増加、共創・課題解決）
- ②上野原で産まれる活動を増やす（活動人口^{*1}の増加、暮らしの質の向上）
- ③語れる上野原をつくる（地域の魅力を語る人の増加、幸福感の向上）

* 1 活動人口：地域に対する誇りや自負心を持ち、地域づくりにいきいきと活動する者

(7) 上野原市みらい戦略が担うSDGs達成に向けた役割

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、平成27年9月の国連サミットで採択された「令和12年(2030年)までに、誰一人取り残さない持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標」のことであります。

17のゴールと196のターゲットから構成され、発展途上国のみならず先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、本戦略においてもその方向性を踏まえ、施策を推進することにより、SDGsに掲げられた関連するゴール達成への寄与を図ります。

持続可能な開発目標(SDGs)の詳細



目標1【貧困】

あらゆる場所あらゆる形態の
貧困を終わらせる



目標2【飢餓】

飢餓を終わらせ、食料安全保障
及び栄養の改善を実現し、
持続可能な農業を促進する



目標3【保健】

あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標4【教育】

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い
教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



目標5【ジェンダー】

ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女児の
エンパワーメントを行う



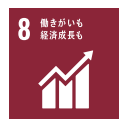
目標6【水・衛生】

すべての人々の水と衛生の利用可能性と
持続可能な管理を確保する



目標7【エネルギー】

すべての人々の、安価かつ信頼できる
持続可能な近代的なエネルギーへの
アクセスを確保する



目標8【経済成長と雇用】

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての
人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある
人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



目標9【インフラ、産業化、 イノベーション】

強靱(レジリエント)なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進
及びイノベーションの推進を図る



目標10【不平等】

国内及び各国家間の不平等を是正する



目標11【持続可能な都市】

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で
持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標12【持続可能な消費と生産】

持続可能な消費生産形態を確保する



目標13【気候変動】

気候変動及びその影響を軽減するための
緊急対策を講じる



目標14【海洋資源】

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を
保全し、持続可能な形で利用する



目標15【陸上資源】

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利
用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠
化への対処ならびに土地の劣化の阻止・
回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標16【平和】

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会
を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提
供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責
任のある包摂的な制度を構築する



目標17【実施手段】

持続可能な開発のための実施手段を
強化し、グローバル・パートナーシップを
活性化する

▼地域ビジョン

まだ 知らないだけ 上野原

方向性

具体化

『上野原の資源の循環で、未知を価値に変える』

まだ知られていない上野原のヒト・モノ・コトを「未知の資源＝捉え、多様な主体がつながり、資源を活かした課題解決を行う挑戦と応援の循環をつくり、未知なる未来も挑戦という価値へ変える」

基本戦略

未来×循環

1

上野原で

子育て・教育の循環

結婚・出産・子育ての安心と楽しみを共有し、人が出会い・磨かれ・育つ未来循環を創る

数値目標（令和7年→令和12年）

- ・合計特殊出生率（5年平均）
- ・上野原市全体における子育ての環境や支援への満足度（満足度がやや低い+低いの合計）



重点プログラム

- 1 「まだ、知らないだけ。」プロジェクト＜①広報、情報発信の強化（市内向け）、②市民関係人口創出プロジェクト＜①二地域居住の推進（デュアルライフや副業・リモートワーク）＞③官民連携・人材育成プロジェクト＜①上野原の特色を活かした学校教育の推進、②官民連携による人材育成＞＞

1 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり

①出会いから結婚・妊娠出産・子育てへの支援

＜子育て支援センターの充実、子ども医療費の助成、学校給食の無料化など＞

②ワークライフバランスの実現

＜学童保育所の運営、放課後子ども教室の実施など＞

2 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり

①郷土愛を育む教育の推進

＜地域を学ぶ総合学習の実施、小中学校での ICT 活用など＞

②連携と協働によって地域を元気にする人材づくり

＜市民活動への助成、市民ワークショップの開催など＞

基本戦略

挑戦×循環

2

上野原で

人、まちを

上野原の自然環境や立地特性を活かしたまちづくりの挑戦と応援の循環を創る

数値目標（令和7年→令和12年）

- ・社会増減数（15歳～49歳）
- ・上野原市の情報が十分に活用されている（思う+やや思うの合計）



1 魅力ある雇用の創出と担い手の確保

①地域資源を活かした仕事づくり

＜総合的な創業支援の体制づくり、地域おこし協力隊の採用など＞

2 多くの人が訪れ、住みたくまちづくり

①魅力ある情報発信力の強化

＜シティプロモーション、市の情報発信の強化＞

②地域資源を活かした環境整備と観光振興

＜観光施設、公園や登山道の補修・整備＞

③移住・定住の促進

＜移住・定住の促進や空き家、空き店舗の活用＞

④上野原への資金の流れをつくる

＜ふるさと納税の一層の促進など＞

デジタル実装（地方創生を下支え） | ①デジタル基盤の整備

『変えるまち』

ポテンシャル」と
とで、市内外に挑
ていきます。

▼目指す人口

出生率を山梨県平均（1.46）と同程度。移動率を現在よりも20%改善

令和12年の目標人口＝**19,348人**

原で 仕事の循環

特性を活かした、新たな
人の流れを生む共創循

12年)

歳)

伝わっている市民割合



基本戦略

安心×循環

3

上野原で

暮らしの循環

誰ひとり取り残されことなく、誰もが幸せを実
感できる安全・安心循環を創る

数値目標（令和7年→令和12年）

- ・上野原市に暮らして幸せだと感じるか（幸福度）
- ・上野原市に住み続けたいと思う市民割合
（ぜひ住みたい＋どちらかと言えば住みたいの合計）



民参加型のシティプロモーションの推進（市外向け）、③総合戦略及び戦略的情報発信の推進、体制の整備＞

ネットワークの推進）、②子育て世帯等の移住の促進、③多様な関わりづくりの創出＞

官民連携体制の構築（コーディネーターの配置、官民連携プログラムの創設）、③職員の課題解決能力の向上＞

手を確保するまちづくり

農業の高付加価値化、体験型観光、

なるまちづくり

発信の強化など＞

と賑わいの創出

整備など＞

店舗の活用など＞

ら

整備／②デジタル人材の育成・確保／③デジタルデバイド対策

1 時代にあった地域をつくり、快適で安全・安心な暮らしを 守るまちづくり

①人生100年時代を見据えた長寿社会の形成

＜地域医療介護事業者の人材確保、地域包括支援の充実など＞

②誰もが安全で安心して暮らせる環境の整備

＜デマンドタクシーや市内循環バスの運行、生活インフラの確保など＞

③特色を活かした地域づくりの推進

＜地域運営組織の推進・複合化、廃校の利活用など＞

(7) 基本戦略ごとのターゲット等の整理

各基本戦略ごとに戦略スタンスやターゲット等を整理すると次のとおりです。

表 基本戦略ごとのターゲット等の整理

	基本戦略1（未来×循環）	基本戦略2（挑戦×循環）	基本戦略3（安全・安心×循環）
地域ビジョン （全体を貫く コンセプト）	上野原の資源の循環で、未知を価値に変えるまち （全体指標：人口目標）		
テーマ	結婚・出産・子育ての安心と楽し みを共有し、人が出会い・磨か れ・育つ未来循環を創る	上野原の自然環境や立地特性を活 かし、新たなチャレンジを応援し、 新たな人の流れを生み共創循環を 創る	誰ひとり取り残されることなく、 誰もが幸せを実感できる安全・安 心循環を創る
関係する人口政策	出生率増 20-30代女性の転入増、転出抑制	転入増、転出抑制	全市民の転出抑制
分野	子育て（産科小児医療含）、教育、 市民協働・官民連携	産業・観光振興、起業支援（人材 育成支援含む）、移住定住促進	福祉・医療 生活インフラ（交通、建設、環境 など） 地域づくり
戦略スタンス	（守る） ファミリー層の定住 郷土愛の醸成	（攻める） 産業の付加価値化、企業・人材誘 致 シティプロモーション	（守る） 持続的な地域の形成 生活インフラの維持・確保
初期ターゲット	市内ファミリー層 20-30代の女性 学生	市内事業者、市内生活者 移住者	市内生活者 全般
目標指標	20-30代女性の転入率 20-30代女性の転出率 地域への郷土愛（魅力度）	転入者数（移住者数） 創業件数 観光客数 情報が伝わっている市民割合	幸福度 上野原に住みたい回答割合
目指す姿 （ゴール）	・安心して子育てができている状 態 ・子どもたちの地域参画によって、 郷土愛が育まれている状態 ・市民協働によって市民活動が活 発に行われている状態	・新たな仕事が生まれたり、既存 産業が活性化したり、雇用が創 出されている状態 ・上野原の魅力や様々な情報が市 民に伝わっている状態	・全ての年代が安心して生活でき ている状態 ・個性ある地域づくりが行われい る状態

6 各基本戦略の展開

(1) 重点プログラム

本戦略において優先度が高く、重点的・横断的に実施するプログラムを次のように設定します。

重点プログラム

1 「まだ、知らないだけ。」プロジェクト

上野原市の魅力・資源や市役所の取り組みなどが、市内外に十分に知られていません。そこで、広報や市公式 SNS などを活用し、市民へ向けた情報発信を強化します。また、上野原に関心を持ってもらい、市へ訪れてもらうために市外へ向けたシティプロモーションを市民とともに効果的に行います。

推進にあたっては、庁内横断の広報連絡会議を設置し、外部有識者（アドバイザー）の意見などを基に、戦略的な広報・情報発信を行います。

事業名	事業概要
「まだ、知らないだけ。」プロジェクト事業	市のブランドメッセージ「まだ、知らないだけ。」を発信・浸透を図るため、PR事業や官民連携プロジェクトを実施する事業
シティプロモーション戦略策定事業	上野原市を知ってもらう取組として、庁内横断的な「広報連絡会議」を設置し、上野原市の強みを内外に発信し、本市のイメージを高める戦略的な広報活動を定めた計画の策定を行う事業
情報発信体制の構築事業	戦略的な広報、情報発信を行うため、外部アドバイザー（有識者）を招聘し、庁内横断的な連携体制を構築する事業
マーケティングダッシュボード整備事業	Google検索や各種SNSにおける拡散性などをデータ集約、視覚化し、上野原の情報発信にまつわる数値をすべて一元管理するマーケティングダッシュボードを整備する事業

重点プログラム

2 関係人口創出プロジェクト

上野原の最大の強みである都心部へのアクセス性と多様な地域特性を活かした二地域居住の促進や副業人材と地元の企業のマッチングによる関係人口の創出など、上野原市との多様な関わり方を創出し、移住定住を促進します。また、立地適正化計画に基づき、適切に居住誘導を図りながらコンパクトで持続可能なまちづくりを進めます。

事業名	事業概要
二地域居住等促進事業	二地域居住やリモートワーク等を促進するため特定居住促進計画の策定を行い、官民連携による「住まい」・「なりわい」・「コミュニティ」の提供を行う事業
立地適正化計画促進事業	立地適正化計画に定めた、コンパクトで持続可能なまちづくりを推進するため、居住地や都市機能の適正な立地、公共交通の充実等を図る事業
ビジネスマッチング支援事業	首都圏の副業人材のスキルやノウハウを、人材不足や経営課題を抱える地元企業とマッチングし課題解決を図る事業
多様な移住促進事業	母子家庭や父子家庭などのひとり親家庭に向けて、住宅の確保や福祉・教育などの問い合わせをワンストップで相談に乗ることができる窓口を設置する事業
DX人材育成事業 (デジタルマーケティング 研修事業)	市職員等を対象に、デジタルマーケティングからシティプロモーションの必要性・流れを学ぶ研修を行う事業

3 官民連携・人材育成プロジェクト

本戦略に定めた施策を推進するには多様な人材が必要です。そこで、公民共創コーディネーターを配置し、首都圏企業等との官民連携を図りながら、スピード感をもって地域課題の解決を図ります。また、市内中学校・高校の特色ある学びを推進し上野原市の教育魅力化を図ります。

市内の人材育成についても、首都圏企業等との交流を図りながら、より主体的で課題解決力のある人材の育成を図ります。

事業名	事業概要
教育魅力化支援事業	市内の中学校・高校において地域の特色ある学びを推進するため、魅力化コーディネーターを配置し、総合的な探究の時間の授業の支援や地域と連携したプログラムづくりを行う事業
公民共創コーディネーター 配置事業	地域活性化起業人を活用し、市内外の企業等との連携促進や企業誘致に向けた調査検討を図る事業
地方創生リーダーシップ・ プログラム創設事業	行政課題等に対し、首都圏などの大手企業と連携し、プロフェッショナル社員と担当職員が協働で課題解決案を検討する事業

(2) 基本戦略1 子育て・教育の循環

結婚・出産・子育ての安心と楽しみを共有し、人が出会い・磨かれ・育つ未来循環を創る。

現状と課題

- ・ 人口減少に対応していくためには、出生数の増加が重要です。上野原市の出生率は、山梨県内でワーストとなっており、また、市民アンケートでは、「妊娠・出産・子育てに対する経済的支援」が満足度が低く、重要度が高い、重点課題領域となっていることから、出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目のない支援が必要です。
- ・ 今後、若い世代の出会いをサポートし、安心して子どもを産み、育てることができるよう、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行うとともに、医療も含めた地域全体での子育て支援体制の強化が求められています。
- ・ さらに、子育て環境と同様に教育環境も移住先、定住先（転入の促進、転出の抑制）を検討する上で重要視されていることから、上野原市独自の特色ある教育環境の充実が必要です。

基本的方向

- ・ 妊娠・出産・子育てに対する経済的支援については、遠方の分娩施設への交通費等助成や在宅保育に対する支援金を支給するなど、新たに出産・子育てしやすい環境づくりを進めます。
- ・ 市内での出会いや結婚を望む方については、「うえのはら結婚サポートセンター」を設置し、結婚相談員と協働しながら出会いから結婚までの相談体制を強化します。
- ・ 学校や家庭・地域が相互に連携して取り組むとともに、幼児期から中学校・高校までを見通した特色ある教育環境づくりを進めます。

数値目標

項目	基準値	目標値（令和12年）
合計特殊出生率（5年平均）	0.89	1.46
上野原市全体における子育ての環境や支援への満足度 （満足度がやや低い＋低いの合計）	41.6%	30.0%

1-1 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり

具体的施策1-1-① 出会いから結婚・妊娠出産・子育てへの支援

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
成婚数	4組	10組（5年総計）
各種健康教室等の参加者数、割合 （ママパパ教室、妊婦訪問、ここあの集い）	20.8%	30.0%

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
うえのはら結婚サポートセンター事業	上野原市での出会いを希望される方に対し、結婚相談員と連携し安心して出会い・結婚相談できる環境を創出する事業
結婚新生活応援補助事業	少子化対策及び子育てしやすいまちづくりを推進するため、39歳以下の者に対して住居費等の支援を行う事業
上野原市出産時交通費等助成事業	出産奨励祝金に代わる事業として安全に安心して妊娠・出産できる環境を整えるため、自宅又は里帰り先から遠方の分娩可能医療機関までの交通費及び宿泊費を一部助成する事業
子育て世帯負担軽減事業（学童保育昼食提供事業）	放課後児童健全育成事業（学童保育）利用における夏休み期間中の昼食を提供することで保護者の負担軽減につなげる事業
こどもの居場所づくり事業	図書館など公共施設を活用し、主に中学生から高校生世代が学習や談話など自由に利用できる居場所を設ける事業
在宅保育支援事業	多様な子育て環境を支援するため、こどもの健全育成と子育てしやすい環境づくりを目的に、保育施設を利用せず家庭で保育している保護者に対し支援する事業

具体的施策1-1-② ワークライフバランスの実現

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
子育て（教育・保育を含む）に関する支援情報についての満足度	54.5%	60.0%

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
放課後児童健全育成事業	昼間保護者等が労働等により家庭にいない小学生児童に、授業終了後に適切な遊び及び生活の場を与えて、その児童の健全な育成を図る事業
意識改革を推進するための広報・啓発事業	市民や職場に対して意識改革のための広報や啓発を行い、「仕事」と「仕事以外の生活」の両者の調和を図ることにより、両者を充実させるワーク・ライフ・バランスを推進する事業
潜在保育士再就職支援事業	保育現場で働いたことがない、以前働いていたけどブランクがあり自信がない、といった方を対象に実習を通して保育現場への就労を支援する事業
上野原市こども計画策定事業	当市における子育て施策の地域課題やニーズ調査を行い、子育てしやすい環境づくりを実現するための戦略を定め推進する事業

1-2 連携と協働で郷土愛あふれるまち・ひとを育むまちづくり

具体的施策1-2-① 郷土愛を育む教育の推進

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
10代・20代の地域の魅力をあげられる数（5個以上）	16.9%	20.0%

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
文化財常設展示施設運営事業	上野原市教育振興基本計画に基づき、市の郷土に親しみを持てる情報を共有し、体験できる文化財展示施設を管理、運営する事業
GIGAスクール構想事業	GIGAスクール構想に伴うICT環境整備と活用を進めていくため、1人1台パソコンの整備と付属するソフトウェアやその他環境の整備を進めていく事業
地域の自然・伝統文化活用事業	総合学習等の時間において、学校活動や郷土料理づくりなど、自然豊かな環境の中で自ら考え行動する力を養う教育活動を実施する事業
学校食育推進事業	小規模の市立小中学校の児童生徒を対象に生産者等の指導の下で農業体験を行い、収穫した野菜を学校給食の食材として取り入れ、生産者との交流給食等を実施し食育の推進を図る事業

具体的施策1-2-② 連携と協働によって地域を元気にする人材づくり

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
「子育て・生活共助コミュニティアプリ」内における共助数	—	130件

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
市民活動支援事業	協働と人づくりの推進を目的として、市や地域を良くするために活動する市民団体に対し、その事業費の一部を補助することで地域づくりに繋げる事業
地域住人主導型共助コミュニティ創生事業	子育て世帯の困りごとについて、地域の中で解決できるような仕組みを作るため、頼り合えるコミュニティ形成やその核となるシェア・コンシェルジュを育成する事業

(3) 基本戦略2 人、仕事の循環

上野原の自然環境や立地特性を活かした新たなチャレンジを応援し、新たな人の流れを生む共創循環を創る。

現状と課題

- ・ 上野原市は、都心から 60 ～ 70 km 圏に位置し、車でも、電車でも 1 時間程度でアクセスできる交通利便性の高いまちです。また、上野原駅や市役所周辺の市街地エリアでは、エリア内に桂川が流れるなど、市街地の近くに豊かな自然環境があり、車で 30 分圏内の里山エリアでは、長寿料理や温泉、雑穀、キャンプ場など豊富な地域資源があります。
- ・ 良好な生活環境によって、コロナ禍より移住の問い合わせも増えていますが、賃貸住宅や空き家バンクの登録物件の不足、移住のタイミングのミスマッチなどが課題です。
- ・ また、市民アンケートによる市民の定住意向（住み続けたい割合）も低いため、この環境を活かした創業支援や移住定住支援を促進し、転出抑制を図ることはもちろん、子育て世代や地域に貢献したい層（関係人口）、二地域居住希望者などの移住・定住を促進することが求められています。
- ・ 情報発信については、市の認知度向上をはじめ、市政やまちづくりに関する情報などが、充分市民に届いていないことが課題となっているため、市内外への情報発信を積極的に取組む必要があります。

基本的方向

- ・ 上野原市にある立地特性や地域資源を活かし、若者世代にとって魅力ある雇用の場を創出していくため、新規地域産業の創出や企業の新規立地、起業支援等に取り組みます。
- ・ 市内外でのスポーツを通じた交流やロケツーリズムを促進し交流人口の拡大を図るほか、サテライトオフィスや移住コーディネーターを活用した多様な関わりづくり（関係人口の創出）を行い、移住定住までのステップを多様に創出します。
- ・ 上野原市においては、市内外への情報発信が最大の課題であるため、WEB（市 HP）や広報「うえのはら」、市公式 LINE などの SNS などを戦略的・積極的に活用し、誰もが等しく情報にアクセスできる環境整備を行います。

数値目標

項目	基準値	目標値（令和12年）
社会増減数（15歳～49歳）	-67人（R5年度）	-122人
上野原市の情報が十分に伝わっている市民割合	25.7%	30.0%

2-1 魅力ある雇用の創出と担い手を確保するまちづくり

具体的施策2-1-① 地域資源を活かした仕事づくり

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
新規創業件数	3件	10件（5年総計）

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
起業・創業支援事業	創業希望者や起業後間もない人を対象に、起業・創業に向けた「創業セミナー」を実施する事業
中小企業・小規模企業等支援事業	市内中小企業事業者の返済利息の一部を補助（限度額10万円・3年間）することで、経営安定・経営強化を支援する事業
新規就農者育成総合対策事業	就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、45歳以下の新規就農者に対して、1人年150万円（最長3年間）を補助する事業
地域おこし協力隊事業（地域づくり）	産業や地域振興を担う地域おこし協力隊を採用し、地域の活性化等を図る事業
鳥獣害対策事業	猿や猪等の有害鳥獣から農業被害を防ぐため、巡視員や猟友会への支援を行う事業

2-2 多くの人が訪れ、住みたくなるまちづくり

具体的施策2-2-① 魅力ある情報発信力の強化

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
広報うえのはらを毎月見ている人の割合（市民アンケート）	40.6%	50.0%
市ホームページを見ている人の割合（市民アンケート）	33.5%	40.0%
市SNSを見ている人の割合（市民アンケート）	27.0%	35.0%

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
上野原市PR事業	観光を含めた見やすく分かりやすいホームページの作成や市の魅力を伝える動画の作成、フェイスブック等のSNSを活用した市のPRにより交流人口を増やす事業
上野原ポータル（WEBサイト改修）事業	年齢や障がいの有無に関係なく、誰もが等しく情報にアクセスできるUI・UXのWEBサイト（ポータルサイト）に改修する事業
ロケツーリズム推進事業	撮影場所等の情報をホームページ等で一元的に公開し、積極的に映画やドラマ撮影の誘致を行うことで、交流人口の増加や市民の誇りを醸成する事業

具体的施策2-2-② 地域資源を活かした環境整備と賑わいの創出

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
観光入込客数	251,123人（R5年度）	500,000人

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
桂川水辺等魅力化事業	水辺に興味を持つ市民や企業、行政が一体となって、桂川河川敷等の水辺の新しい活用やジオパーク構想などの可能性を検討する事業
交流施設等運営事業	市の交流施設であるミューの森や緑と太陽の丘キャンプ場、秋山温泉施設、ふるさと長寿館、びりゅう館施設等の運営及び維持管理等を行う事業
スポーツ施設整備事業	桂川野球場やソフトボール球場、秋山観光スポーツ広場等の市営運動施設を維持管理する事業
推奨登山道ルート等補修整備事業	登山道の危険箇所の改修、倒木処理、除草、観光案内板の整備等を行い、登山道における安全性の向上を図る事業

具体的施策2-2-③ 移住・定住の促進

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
移住者数 （市の移住施策を経て移住した数）	63人（5年平均）	65人（5年平均）

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
サテライトオフィス等施設を活用した交流事業	上野原駅北口の見晴亭を活用し、学びに繋がるイベント等を開催することで若者や企業が交流できる機会を創出する事業
地域おこし協力隊事業（移住定住）	交流・関係人口の創出や人材育成などを担う地域おこし協力隊を採用し、上野原駅周辺を中心に移住定住の促進を図る事業
移住コーディネーター活動事業	移住コーディネーターを配置し、移住の相談、空き家バンクの運営、交流イベント開催等の移住・定住に関する支援を行う事業
移住促進情報発信事業	移住者等を紹介する動画をSNS等で情報発信することで、移住を促進したり、移住者に対する理解を深め、空き家バンク登録へ繋げる事業
移住促進補助事業	移住・定住を促進するため、空き家・空き店舗バンクリフォーム補助金や移住者住宅取得補助金などの各種補助事業

具体的施策2-2-④ 上野原への資金の流れをつくる

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
ふるさと納税額	84,287千円（R5年度）	135,000千円以上

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
ふるさと納税推進事業	ふるさと納税をPRし、寄附額の増額と特産品による市の知名度向上、体験コースの利用による交流人口の増加を図る事業
ふるさと納税特産品開発事業 費補助金交付事業	ふるさと納税の特産品の開発、改良などに取り組む事業者を支援するため、一定の要件に該当する事業に補助金を交付する事業
企業版ふるさと納税推進事業	企業版ふるさと納税をPRし、地方創生プロジェクトの推進を図る事業

(4) 基本戦略3 暮らしの循環

誰ひとり取り残されことなく、誰もが幸せを実感できる安全・安心循環を創る。

現状と課題

- ・ 今後予測される人口減少を抑制させていく一方で、全国的な人口減少の中で、上野原市の将来人口も現状よりも厳しくなっていくことが予想されるため、それに備え、適応していく発想も必要です。都市の大きさやモノの豊富さのみに価値観を見出すのではなく、上野原市に暮らす一人ひとりの視点を大切にしながら、誰もが互いの尊厳を尊重し合うことのできる多様性に基づくまちづくりが求められます。

基本的方向

- ・ 起伏に富んだ地形を有する上野原市では、いつでもどこでも快適な移動を実現する地域公共交通の充実や安全で安心な暮らしを守る地域防災・防犯体制づくり、生活インフラの確保などを進めていきます。
- ・ 今後の人口減少・少子高齢化に適応した持続可能な地域をつくるため、日常生活サービスの立地の集約や移動の利便性の確保、効率性を図るため、地域ごとに主体となる協議会等を設立し、主体的に将来像を描き計画に基づき実行していくための仕組みづくりを行います。併せて、廃校となった学校など公共施設の利活用の更なる推進を図ります。
- ・ さらに、人生100年時代を見据えて、全ての人が生き生きと、生涯にわたって活躍してもらうために健康づくりを推進します。

数値目標

項 目	基準値	目標値（令和12年）
上野原市に暮らして幸せだと感じるか（幸福度）	6.28	6.47
上野原市に住み続けたいと思う市民割合 （ぜひ住みたい＋どちらかと言えば住みたいの合計）	49.8%	76.5%

3-1 時代にあった地域をつくり、快適で安全・安心な暮らしを守るまちづくり

具体的施策3-1-① 人生100年時代を見据えた長寿社会の形成

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
介護予防の場の拡充	1か所（R6年度）	15か所（5年総計）

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
介護人材確保事業	介護職員・介護支援専門員の確保と資格取得を支援するために介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修、介護支援専門員、主任介護支援専門員の取得と更新に係る研修費用の一部を補助する事業
地域医療介護連携事業	地域包括ケアシステムにおける医療介護の連携体制作りとして、これまで推進してきた多職種が情報を共有できるシステムの利用を推進し、医療介護に関わる専門職が相談できる体制づくりを行う事業
地域支援事業	介護予防を目的とした、介護予防・日常生活支援総合事業、地域支援事業の包括的支援・任意事業を実施する事業

具体的施策3-1-② 誰もが安全で安心して暮らせる環境の整備

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
デマンドタクシーの利用者数	10,288人（R5年度）	50,000人（5年総計）

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
防災リーダー養成事業	「自助」、「共助」による地域防災力向上のため、地域防災リーダーを養成する事業
書かない窓口推進事業	マイナンバーカードから情報を読み取り、カード更新や各種申請書を自動印刷できる端末を導入することで、来庁者の利便性向上を図り、DXを推進する事業
地域交通充実事業（デマンドタクシー）	市民の移動手段の確保や交通空白地域の解消のため、「地域公共交通活性化協議会」を設置し市内事業者と連携してデマンドタクシーを運行する事業
簡易水道量水器交換事業	秋山・仲間川地区の水道メータをスマートメータに取替えを行い、業務の効率化を図るとともに、市民サービスの向上を図る事業
上野原市高齢者外出支援事業	市内のバスを利用する高齢者に対し、シルバー定期券の費用の一部を補助し、公共交通の利用促進と高齢者の自立した生活を支援するための事業
上野原市公共施設等総合管理計画改訂及び公共施設マネジメント計画策定業務	公共施設の用途別・地域別の配置状況、利用状況及び各施設の劣化度等を整理し、継続活用すべき公共施設の長寿命化を推進するための指針を作成する事業

具体的施策3-1-③ 特色を活かした地域づくりの推進

◆重要業績評価指標（KPI）

項目	基準値	目標値（令和12年）
地域運営組織の設立数	—	3団体（5年総計）

◆主な事業（抜粋）

事業名	事業概要
地域活性化策調査研究事業	近隣の高校や大学などの学校と連携して、上野原市をフィールドに学生目線での地域資源の発掘や地域活性化に繋がる提案をするための調査研究事業
地域運営モデル事業	地域住民や地域団体の参画と協働の推進を図りながら、自主的、自立的に地域課題の解決に向けた活動を行う地域運営組織等の設立（組織の立ち上げ、地域計画の策定等）を支援する事業

(5) デジタル実装

本戦略は国の方針に基づき地域の個性を生かしながら、デジタルの力によって地方創生の取り組みを加速化・深化させることを目的としており、今後デジタルの力を活用した地方創生施策を、政策部門とデジタル（情報）部門を始め、庁内の各部局で連携して検討し、取り組みを推進してまいります。また、民間事業者等のノウハウを活用するなど、より質の高い施策に取り組んでいきます。

◆基本的方向性

① デジタル基盤の整備

地域の生活基盤やコミュニティを支え、維持するために、デジタルを活用したサービス提供に必要な基盤を整備する。

＜上野原市 DX 推進計画の推進／デジタルインフラ整備（スマホ市役所の推進）／マイナンバーカード利活用 等＞

② デジタル人材の育成・確保

デジタル化を推進していく上では、デジタル技術やデータを効果的に利活用できる人材が欠かせないため、DX推進を牽引する「デジタル人材」の育成を促進する。

＜ICT教育の推進／デジタル人材育成の推進 等＞

③ デジタルデバйд対策

すべての人にやさしいデジタル化の推進において、スマートフォンやパソコンを使いこなすことが難しい層への「デジタルデバйд」（情報格差）対策が必要であり、デジタル機器に不慣れな市民への支援として、デジタル化のメリットを分かりやすく伝えるとともに、デジタル機器に触れる機会や学ぶ場の提供を促進する。

＜デジタル支援体制の充実／デジタルに関する各種講座の開催 等＞

上 野 原 市
みらい戦略
= 資 料 編 =

資料1 上野原市まちづくり委員名簿（敬称略）

NO	区分	氏名	所属・役職等
1	学	河井 孝仁	合同会社公共コミュニケーション研究所代表 CEO 兼 東海大学文化社会学部広報メディア学科客員教授)
2		野田 英樹	帝京科学大学 生命環境学部アニマルサイエンス学科 准教授
3		小笠原 宏	山梨県立上野原高等学校 校長
4	産	糸井 孝行	J R東日本 大月営業統括センター 所長
5		坂本 康嘉	上野原工業団地（有）坂本鉄工 専務取締役
6		戸田 和樹	上野原青年会議所（JC）理事長
7		原田 翼	上野原市商工会 青年部副部長
8		青木 光昭	北都留森林組合組合
9		堂本 隆司	上野原市観光協会 会長
10	官	佐野 敏	富士吉田公共職業安定所 大月出張所 所長
11	金	岡村 友二	山梨中央銀行上野原支店 支店長
12	労	小俣 卓充	市民応募（（WADE 株式会社 代表）・（株）パノラマ 役員）
13		小池 友美	市民応募（理学療法士（産前産後ケアセラピスト））
14		村井 保恵	市民応募（キャリアコンサルタント）
15		前野 和泉	市民応募（すすむ企画 代表）
16		内尾 富美代	市民応募
17	言	中山 純	山梨日日新聞社 山梨放送富士吉田総支社長
18	士	高橋 範朗	高橋税務会計事務所 所長

資料2 上野原市まちづくり委員会の開催概要

回	開催年月日	協議内容等
1	日時：令和6年3月28日（木） 午後2時30分から 場所：上野原市役所2階会議室D	1 開 会 2 自己紹介 3 委員長等選出 3 委員長あいさつ 4 河井先生ミニ講演 5 議 事 （1）第3期総合戦略の策定方針について （2）現在の進捗の報告（市民アンケート、第2期総合戦略の評価・検証） （3）今後の進め方等について 6 その他 7 閉 会
2	日時：令和6年5月23日（木） 午後1時30分から 場所：上野原市役所2階会議室D	1 開 会 2 あいさつ 3 議 事 （1）現状分析、アンケート結果について （2）第2次総合戦略の評価について （3）人口ビジョンの考え方について 4 その他（うえのはら未来会議の報告など） 5 閉 会
3	日時：令和6年8月21日（木） 午後1時30分から 場所：上野原市役所2階会議室	1 開 会 2 あいさつ 3 議 事 （1）人口ビジョン（目標人口）について （2）地域ビジョンについて （3）総合戦略骨子（案）について 4 その他（うえのはら未来会議の報告など） 5 閉 会
4	日時：令和6年10月31日（木） 午後1時30分から 場所：上野原市役所2階会議室	1 開 会 2 あいさつ 3 前回の振り返り 4 議 事 （1）総合戦略素案について 5 その他（今後のスケジュールについて） 6 閉 会
5	日時：令和6年12月17日（火） 午後3時から 場所：上野原市役所2階会議室D	1 開 会 2 あいさつ 3 議 事 （1）前回の振り返り （2）上野原市みらい戦略2025-2030（案）について ・地域ビジョンについて ・重点プログラムについて ・基本戦略1、2、3について 4 その他（今後のスケジュール等について） 5 閉 会

資料3 パブリックコメントの実施結果

募集期間：令和6年12月24日（火曜日）から令和7年1月24日（金曜日）まで
 閲覧場所：市役所・秋山支所・各出張所に掲出、市ホームページに掲載
 実施結果：意見等の提出はありませんでした。

資料4 上野原市まちづくり委員会設置要綱

上野原市まちづくり委員会設置要綱

平成31年3月19日

告示第26号

（設置）

第1条 市の総合的なまちづくりに関する計画、人口減少問題に対する施策及び地域活性化に関する施策を推進するに当たり、専門的、かつ、多様な立場から広く意見や提言を聴取するため、上野原市まちづくり委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事項）

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- （1）市の基本構想及び総合計画の策定並びに変更に関すること。
- （2）上野原市人口ビジョン・総合戦略の策定及び変更並びに成果検証に関すること。
- （3）国土利用計画（上野原市計画）の策定及び変更に関すること。
- （4）その他まちづくりや地域活性化に関し、委員会において必要と認める事項

（組織）

- 第3条 委員会は、委員20人以内で組織し、委員は市長が委嘱する。
- 2 委員会に委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選により定める。
 - 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
 - 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（任期）

- 第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

- 第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。
- 2 委員長は、必要があるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、総務部政策秘書課において処理する。

（地区まちづくり委員会）

- 第7条 市長は、第2条に規定する所掌事項について、地域の意見や提言をより広く聴取する組織として、地区まちづくり委員会を置くことができる。
- 2 地区まちづくり委員会の構成、運営等については、市長が別に定める。

（その他）

第8条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行する。

上野原市みらい戦略 2025-2030

(上野原市デジタル田園都市構想総合戦略)

令和7年3月

編集・発行 上野原市役所 政策秘書課

〒409-0192

山梨県上野原市上野原 3832 番地

TEL 0554-62-3191 (直通)

FAX 0554-62-5333

URL <https://www.city.uenohara.yamanashi.jp>